

HOKKAI GAKUEN UNIVERSITY
DELIVERY LECTURE PROGRAM
2026



2026
出前講義
北海学園大学

 北海学園大学
Hokkai-Gakuen University



大学の講義ってどんなものなんだろう？

高校生の皆さんのこんな疑問に応えるため、
北海学園大学では教員が高校等の教室で講義を実施し、
その雰囲気味わっていただく「出前講義」を行っています。
学問の楽しさ・面白さを知ってもらうため、
高校生に関心の高いテーマを設定し、
わかりやすく講義をします。
出前講義を通して、本学の講義内容と教員について
より良く知っていただくとともに、
進路決定や将来勉強することになる専門分野についての
知識や情報の取得などにお役立てください。

講義のテーマ・内容 Themes and Contents

テーマ・担当教員・講義概要については次ページ以降をご覧ください。時間は60～90分程度を考えておりますが、ご希望に沿うようにします。出前講義を双方にとって実りのあるものとするために、具体的なご要望を事前にお伝えください。

例えば

- **大学の雰囲気を知りたい** → 通常のありのままの講義を行う
- **学問に関心を持つきっかけにしたい** → 興味を抱けるテーマをわかりやすく講義する

といった配慮をします。できる限りのご要望にはお応えしますので、ご相談ください(ご要望に沿えない場合もあります)。

申込方法 Application Procedure

- **申込用紙にご記入のうえ、FAXでお送りください。**高校等における実施要領等の資料を併せてお送りください。
- **派遣教員の都合上、ご希望の日時に講義できない場合もありますので、ご希望の教員を複数あげてください。**
教員の都合等によりましてはご希望に沿いかねる場合もあります。
- **講義の準備のため要望事項以外に、受講者の学年・おおよその人数なども事前にお知らせください。**学年や人数に制限はありません。
- **準備の都合上、1ヵ月以上の余裕をもってお申し込みください。**
- **複数の教員派遣をご希望の場合は、事前にお問い合わせください。**
- **複数回の講義を希望される際は、備考欄にその旨をご記入願います。**
- **資料の準備がありますので、講義の10日前には確定した受講者数をお知らせください。**
資料として受講する生徒の皆さんに本学の大学案内等を配布させていただいております。
- **通常は対面のみのお申し込みとなりますが、オンラインでのご希望は別途ご相談ください。**

期 間 Period

夏休みなど長期休暇期間も含め、基本的に1年中受け付けます(ただし、一般選抜期間等の学内行事の都合により、お受けできない場合もございます)。

そ の 他 Other

- **講演料・旅費等、高校等側の負担は一切ありません。**
- **受講された方にアンケートの記入をお願いすることがあります。**
- **本学の出前講義は、高校等から直接本学にお申しいただく形で実施しております。業者等を仲介してお申し込みは承りかねます。**
- **本学では高校等内での進学説明会も実施しております。実施のご希望がございましたら、入試課までお問い合わせください。**

経済学分野	「どのように脱炭素社会を構築していくのか」 「北海道のSDGsを考える」	経済学部 教授 上園 昌武	4
	「森林を使って地域の経済をとり戻す」 「地域の資源 地域の経済」	経済学部 教授 早尻 正宏	4
	「経済学×高校数学×金融リテラシー」 「経済学的考え方」	経済学部 教授 逸見 宜義	4
	「国と地方の財政～私たちの国・マチは大丈夫ですか?」 「人口減少社会の課題と地域創生」	経済学部 教授 西村 宣彦	4
	「ふるさと納税とその功罪を考える」 「女性・男性の格差を見える化する」	経済学部 教授 中園 桐代	4
	「野菜の流通と産地づくり」 「欧米かッ! 欧米化! 欧米か?」	経済学部 教授 宮入 隆	5
	「経済王に、俺はなる! ～グランドライン編」 「大学生協から始める国際協力 ～フェアトレード」	経済学部 教授 平野 研	5
	「地域課題をビジネスで解決する?中小企業の可能性」 「地域経済の活性化って何だろう?」～十勝の小麦から考える～	経済学部 教授 大貝 健二	5
	「人間らしい働き方を実現するために ——若者の雇用・労働のいま」 「仕事で困ったときにはどうする? ——若者とワーク・ルールそしてユニオン」	経済学部 教授 川村 雅則	5
	「女性差別なんてもうムカシの話? ——女性の労働と男女の生き方を考える」 「投資のはなし」	経済学部 准教授 宇土 至心	5
	「『世界』を読む目—政治経済と社会文化の接合」 「多文化共生社会への道」	経済学部 教授 土橋 康人	6
	「まさかの? なるほど? ドウミンshow」 「統計学が経済分析に対する万能の学問である??」	経済学部 准教授 鈴木 雄大	6
	「裁判になる統計!?!」 「ローカル鉄道の今後について考えよう!」	経済学部 准教授 藤田 知也	6
	「 経済学とは何か? 」		6
	「経営学とは何か—経済学と経営学の違いを知ろう」 「企業を成功に導く経営学—「iPhone」はどうやって生み出されたのか?」	経営学部 教授 佐藤 大輔	6
	「アイデアを生み出すための学問「経営学」—経営学を使う仕事ってどんなの?」 「スポーツだってマーケティング」	経営学部 教授 伊藤 友章	7
	「ヒット商品の作り方をみんなで考えてみる」 「江戸のユニクロー越後屋のビジネスモデル。」	経営学部 教授 近藤 弘毅	7
	「鉄道と生活文化—鉄道が私たちの生活を作った。」 「あなたはユニクロとしまむらの違いがわかりますか?!!」		
	「あなたはどのコンビニが好き?!—経営戦略で考えるコンビニ業界—」 「ヒット商品はいかに生み出されるのか?!!」	経営学部 教授 今野 喜文	7
	「経営学で考えるカップヌードルのつくり方—ひとつの商品に詰まったビジネスのすべて—」 「ココロで読み解く経営学の世界」	経営学部 教授 石嶋 芳臣	7
	「企業不祥事はなくなる?!」 「ドロッカーを読む」～「新しい社会」と経営学～		
	「日本の会社と社会」～セブン・イレブンと流通革命～ 「良い企業とは?」～そもそも会社ってなんだろう?～	経営学部 教授 春日 賢	8
「グローバル時代のビジネス戦略から学ぶ」 「グローバリゼーションと私たちの生活を考える」	経営学部 教授 菅原 秀幸	8	
「世界に出よう。世界は可能性に満ち満ちている」 「Excelソルバーを用いた意思決定」	経営学部 教授 上田 雅幸	8	
「ニュースを見るための会計学」 「Excelによる指数・対数計算」	経営学部 教授 今村 聡	9	
「SDGs時代の会計学」 「経営活動と情報システム」	経営学部 講師 川津 大樹	9	
「あなたは最適な人と結婚できますか?」～意思決定から見る経営学の世界～ 「経営学は社長のための学問なのか?」	経営学部 教授 天笠 道裕	9	
「 経営学とは何か? 」	経営学部 准教授 金 倫廷	9	
「経営学は社長のための学問なのか?」	経営学部 准教授 中村 暁子	9	
「 経営学とは何か? 」		9	
「数学を使わずに学ぶ統計学」～最強の学問への招待～ 「GISによる公共交通問題へのアプローチ」	経営学部 教授 関 哲人	9	
「GISによる静脈産業へのアプローチ」 「移民の経済学—静脈産業を対象—」	経済学部 教授 浅妻 裕	10	
「北海学園大学のGISカリキュラム」 「GISとは何か—ArcGIS Onlineの魅力—」	複数の教員 (経済学部:浅妻 裕・大貝 健二・鈴木 雄大・水野谷 武志/人文学部:谷端 郷)	10	
「デジタル・ネットワーク社会の爆発と人間関係の変容」 「企業社会の変化と働き方」～国際化における企業社会の比較～	経済学部 教授 山田 誠治	10	
「日本の人口減少—何が問題か?」 「地域づくりは、「わかるの豊富化」から」～担い手としての社会教育士～	経済学部 教授 佐藤 信	10	
「国語教育と英語教育をつなぐ」 「翻訳から見た日本語・日本文化」	経済学部 教授 内田 和浩	10	
「ジャーナリズムと法」 「人を殺したら、必ず刑務所行きか」	経済学部 教授 榎木 貴之	11	
「あなたは公務員になりたいですか」 「身近な商法の話」～もしも旅館で物が盗まれたら…～	法学部 教授 韓 永學	11	
「死刑存廃」 「振り込め詐欺の現状と対策」	法学部 教授 鈴木 光	11	
「SNSと刑法」 「薬物犯罪とその対策」	法学部 教授 草間 秀樹	11	
「資格試験・公務員試験における法律学・政治学」 「法学部で学ぶということ」	法学部 教授 神元 隆賢	12	
「法と法律」 「法的思考のイントロダクション」			
「法と正義」 「『法』が先か「政治」が先か」	法学部 教授 菅原 寧格	12	
「法律の世界」 「身近な事例で民法入門!」	法学部 教授 稲垣 美穂子	12	
「学校と民法」 「このトラブル、どう解決する?」	法学部 教授 四ッ谷 有喜	13	
「法はなぜ生まれ、どこに向かうのか?—共に生きるための知恵の歴史」	法学部 教授 谷本 陽一	13	
	法学部 教授 大滝 哲祐	13	

社会科学系	法学分野	「法学入門」なのだ	法学部 准教授 岡本 直貴	13
		「『公正かつ自由な競争』と法～独占禁止法とその周辺」	法学部 准教授 菅野 直之	13
		「国連は何をすることか?」	法学部 准教授 菅野 直之	13
	政治学分野	「ドイツの政治を知る」	法学部 教授 本田 宏	13
		「個人的なことと政治的なこと」	法学部 教授 井上 陸	13
		「ボードゲーム『The Arctic』—地球沸騰化時代の北極」	法学部 准教授 高橋 美野梨	14
		「デモクラシー(民主主義)とは何か」	法学部 教授 高橋 義彦	14
		「日本の政党政治を歴史から考える」	法学部 准教授 十河 和貴	14
		「植民地統治からみる日本近代史」	法学部 准教授 津田 久美子	14
		「SDGsの読み解き方」	法学部 准教授 津田 久美子	14
人文科学系	心理学分野	「なぜ学校で習ったことを日常に活かさないのか」	経営学部 教授 佐藤 淳	15
		「山頂の缶ジュースはなぜ高いのか～経済認識の誤り」	経営学部 教授 鈴木 修司	15
		「間違いだらけの意思決定」	経営学部 教授 鈴木 修司	15
		「『知識の呪い』—経験重視主義の誤謬—」	経営学部 教授 鈴木 修司	15
		「『集団は賢いか』～体験ゲームを通じて考える～」	経営学部 教授 増地 あゆみ	15
	歴史学分野	「『人を動かす』コミュニケーションとは」	経営学部 教授 増地 あゆみ	15
		「カウンセリングとは何だろう?～ちょっとだけのぞいてみませんか?～」	法学部 教授 後藤 聡	15
		「誤りから考える人間関係の心」	経営学部 教授 田中 勝則	16
		「教員免許の仕組みと教員になるための道のり」	経営学部 教授 田中 勝則	16
		「大学生生活を楽しむために!～学生生活と心の健康入門～」	経営学部 教授 田中 勝則	16
歴史学・政治学分野	「性格に関するホントとウソよりよい人間関係のために」	経営学部 教授 田中 勝則	16	
	「心の健康に関連するカラクリ」	経営学部 教授 田中 勝則	16	
	「私たちと彼らの境界—集団間関係を理解する—」	経営学部 准教授 中川 裕美	16	
	「スポーツファンの熱狂」	経営学部 准教授 中川 裕美	16	
	「人種差別はなくなったのか?」	人文学部 教授 大森 一輝	16	
文化学分野	「日本中世における生と死」	人文学部 教授 大森 一輝	16	
	「日本古代・中世における時間の流れ」	人文学部 教授 片岡 耕平	16	
	「思想史って何だろう?」	経済学部 教授 小林 淑憲	16	
	「近世イギリスにおける議会制度」	経済学部 教授 小林 淑憲	16	
	「『ミステリー小説から見るイギリス近現代』」	人文学部 教授 仲丸 英起	17	
文学分野	「明治維新と議会制度の導入—地域の視点で考える—」	法学部 講師 伊故海 貴則	17	
	「北海道の近代社会史」	法学部 講師 伊故海 貴則	17	
	「メディアが創る未来/メディアで創る未来」	人文学部 教授 柴田 崇	17	
	「サイボーグの過去・現在・未来」	人文学部 教授 柴田 崇	17	
	「アニメの中の北海道」	人文学部 教授 大石 和久	17	
地理学分野	「『聖書』には何が書かれているか?」	人文学部 教授 佐藤 貴史	17	
	「アメリカの建国とキリスト教文化」	人文学部 教授 佐藤 貴史	17	
	「現代美術の見方・楽しみ方」	工学部 教授 原井 憲二	18	
	「文学の中の秘密結社」	工学部 教授 原井 憲二	18	
	「モーツァルト『魔笛』の時代背景を読む」	法学部 教授 北原 博	18	
人類学分野	「ドイツってどんな国?」	法学部 教授 北原 博	18	
	「怪獣のいる中国文学史」	法学部 教授 中根 研一	18	
	「シューベルト『魔王』でドイツ語を学ぶ」	経済学部 教授 北原 寛子	18	
	「すぐに使えるドイツ語30語」	経済学部 教授 北原 寛子	18	
	「英語で文学を楽しむ」	人文学部 教授 森川 慎也	18	
歴史学・人類学分野	「鎌倉時代の作り物語」	人文学部 准教授 関本 真乃	18	
	「『源氏物語』の女君の『顔』」	人文学部 准教授 関本 真乃	18	
	「小説のヒミツ、おしえます。—「顔」をキーワードに」	人文学部 教授 田中 綾	19	
	「芥川龍之介も太宰治も…作家はみんな(検閲)をうけていた」	人文学部 教授 田中 綾	19	
	「短歌創作ワークショップ」	人文学部 教授 田中 綾	19	
文化学・歴史学・語学分野	「読んでみよう、三浦綾子—旭川出身のミリオンセラー作家の魅力」	人文学部 教授 田中 綾	19	
	「バナナとグローバリゼーション」	人文学部 教授 小松 かおり	19	
	「人類と文化」	人文学部 教授 須田 一弘	19	
	「『クナシリ・メナシの蜂起』の世界史的な意義」	人文学部 教授 手塚 薫	19	
	「社会科学における“発展”とは何か?～韓国を例に～」	経済学部 教授 辻 弘範	19	
地理学・GIS分野	「人を惹き付ける都市」～北海道・日本・朝鮮半島～	経済学部 教授 辻 弘範	19	
	「ハンブルを知る、言葉を知る」	経済学部 教授 辻 弘範	19	
	「日本文化とは何か?」		20	
	「英米文化とは何か?」		20	
	「地形からみた身近な地域」	人文学部 准教授 谷端 郷	20	
語学分野	「Web地図を使って主題図を作成してみよう」	人文学部 准教授 谷端 郷	20	
	「北海学園大学のGISカリキュラム」	複数の教員 (人文学部: 谷端郷/経済学部: 浅妻裕・大貝健二・鈴木雄大・水野谷武志)	20	
	「GISとは何か—ArcGIS Onlineの魅力—」	複数の教員 (人文学部: 谷端郷/経済学部: 浅妻裕・大貝健二・鈴木雄大・水野谷武志)	20	
	「Communication Strategies Model Lesson(Oral Communication)」	経営学部 教授 マツネ・マーク	20	
	「文学の歴史」	人文学部 教授 徳永 良次	20	
語学分野	「Webを英語学習に役立てる」	工学部 教授 平田 洋子	20	
	「英語を勉強して、そのあとどうする?」～英語を「使う」ということ～	経営学部 教授 浦野 研	21	
	「フランス語を話そう」	経営学部 准教授 一條 由紀	21	
	「TVドラマ・映画に学ぶ英語口語表現」	経営学部 准教授 一條 由紀	21	
	「アニメで学ぶ留学の英会話」	人文学部 教授 田中 洋也	21	
	「日本語でできる国際交流—くやさしい日本語>をはじめよう—」	人文学部 准教授 丸島 歩	21	
	「創作のことばが作るイメージ」	人文学部 准教授 丸島 歩	21	
	「多言語国家スイスの言語状況について」	工学部 教授 熊坂 亮	21	
	「『英語以外の外国語』にふれてみよう～ドイツ語会話入門～	工学部 教授 熊坂 亮	21	
	「What is important in communication」	人文学部 教授 ジェレミ・ブシャー	21	
語学分野	「英語を話す3つの秘訣を学びましょう」	法学部 准教授 佐藤 ケイト	22	
	「キリル文字から始めるロシア語」	法学部 准教授 佐藤 ケイト	22	
	「ウクライナ語から知るウクライナ」	人文学部 講師 清沢 紫織	22	
	「ベラルーシから考えるロシア語圏のことばと社会」	人文学部 講師 清沢 紫織	22	
	「歌で学ぶ英語らしい発音:個別の発音と音のつながりを中心に」	人文学部 教授 岩田 哲	22	
「日本語には主語がない?」	人文学部 講師 南 明世	22		

自然科学系	社会環境工学分野	「橋の話」	工学部教授	小幡卓司	23
		「はじめての鉄筋コンクリート工学」	工学部教授	高橋良輔	23
		「河川管理」	工学部教授	鈴木洋之	23
		「私たちのくらしと安心・安全な水」	工学部教授	山田俊郎	23
		「水質汚濁問題と水環境をまもるしくみ」	工学部教授	安藤直哉	23
		「限りある資源「水」を考える」	工学部教授	安藤直哉	23
		「なぜ三角形は強いのか？ 橋が力を支える仕組みとペーパートラス橋の実験」	工学部准教授	金澤健	23
		「恋愛微分方程式から学ぶ力学の世界」	工学部准教授	金澤健	23
		「社会環境工学とは何か？」			23
	建築学分野	「環境情報工学とは何か？」			23
		「建築空間と光について」	工学部教授	米田浩志	24
		「現代美術館の魅力について」	工学部教授	米田浩志	24
		「北海道住宅の開放性について」	工学部教授	米田浩志	24
		「まちを観察してみよう」	工学部教授	岡本浩一	24
		「建築学科学生による空き家再生」	工学部教授	岡本浩一	24
		「まちづくり発祥の地 北海道」	工学部教授	岡本浩一	24
		「少子高齢・人口減少社会において公共建築物の建築計画にもとめられること」	工学部教授	石橋達勇	24
		「建築物の劣化診断と補修について」	工学部教授	足立裕介	24
	情報工学分野	「人が生き活きとする環境にやさしい建物とまちづくり」	工学部教授	小柳秀光	24
		「建築・都市とフィールドワーク」	工学部准教授	清水信宏	24
		「環境建築と"かたち"」	工学部教授	三澤温	25
		「ガラスと建築」	工学部教授	三澤温	25
		「建築学とは何か？」			25
「サイエンティフィックビジュアライゼーションの入り口」		工学部教授	菊地慶仁	25	
「コード化そして冗長化の役割 ～コード化理論の基本」		工学部教授	菊地慶仁	25	
「PCでドローンを制御するには」		工学部教授	喜田拓也	25	
「情報の量をはかる意外な方法」		工学部教授	喜田拓也	25	
電子工学分野	「生命科学とアルゴリズム」	工学部教授	喜田拓也	25	
	「オノマトペはやさしくてむずかしい」	工学部教授	内田ゆず	25	
	「人工知能は人の言葉を理解しているのか？」	工学部教授	内田ゆず	25	
	「論理的に考えるコンピュータ」	工学部准教授	佐藤晴彦	25	
	「液晶の科学」	工学部教授	佐々木裕司	26	
	「声が出る仕組み」	工学部教授	元木邦俊	26	
	「ロボットビジョンのしくみ」	工学部教授	高氏秀則	26	
	「電波はどのように利用されているか」	工学部教授	笹森崇行	26	
	「光の不思議」	工学部教授	藤原英樹	26	
天文学分野	「電子情報工学とは何か？」			26	
	「巨大望遠鏡で観る100億光年彼方の銀河」	工学部教授	但木謙一	26	
	「ブラックホールは本当に存在するのか？」	工学部教授	但木謙一	26	
	「第2の地球は存在するのか？」	工学部教授	但木謙一	26	
	「物理学の技法～系の理想化・思考実験・物理量の次元と単位～」	工学部教授	前田秀基	27	
	「地球と原子を測る～持てないものの大きさを知る方法～」	工学部教授	前田秀基	27	
	「物理で微分と積分を使う～力学を例にして～」	工学部教授	前田秀基	27	
	「タイムマシンの作り方」	工学部教授	前田秀基	27	
	「原子の世界への入口～見なくても物質の構造がなぜわかるのか～」	工学部教授	前田秀基	27	
理学・環境分野	「ミクロの世界の物理学と複素数」	工学部教授	森越文明	27	
	「絶滅危惧種シマフクロウを守る」	工学部教授	早矢仕有子	27	
	「脳波からなにがわかるか？」	工学部教授	鈴木聡士	27	
	「香りの科学」	工学部教授	久保勘二	27	
	「生命科学の光と影」	工学部教授	高橋考太	28	
	「ミュータントが教えてくれること～分子遺伝学入門～」	工学部教授	高橋考太	28	
	「生命の尊厳とバイオテクノロジー～生命倫理学入門～」	工学部教授	高橋考太	28	
	「iPS細胞研究の最前線」	工学部教授	水谷武臣	28	
	「タンパク質の力で環境問題を解決する」	工学部教授	友池史明	28	
生命科学分野	「生命で重要な役割を果たす核酸の応用」	工学部教授	友池史明	28	
	「生命工学とは何か？」			28	
	「量子コンピュータの裏にある数学」	工学部准教授	船川大樹	28	
	「正五角形と正七角形の作図について」	工学部教授	山本隆範	28	
	統計・数学分野	「ライフスタイルと健康の関係」～あなたの生活は大丈夫？～	経営学部教授	伊熊克己	29
		「ライフステージの健康・スポーツ活動を考える」	経営学部教授	伊熊克己	29
		「目のつけどころで勝利しよう」	経営学部准教授	吉田充	29
		「スポーツに必要な基礎的動作の能力アップ法」	経営学部准教授	吉田充	29
		「実技 運動部のトレーニング」～ストレッチングを使い分ける～	経営学部教授	田中昭憲	29
「競技スポーツにおけるスポーツ科学と測定値」		法学部准教授	内藤貴司	29	
総合科学系	体育学分野		法学部准教授	内藤貴司	29

経済学分野

経済学部 教授 上園 昌武 UEZONO Masatake

専門 資源・エネルギー経済論、環境政策論

【どのように脱炭素社会を構築していくのか】

世界各地で気象災害が頻発し、気候変動問題が深刻化しています。そこで国連はパリ協定を発効して、各国に脱炭素社会の構築を目指すように求めています。どのように100%再生可能エネルギーによるエネルギー自立を目指していけばよいのか、ドイツや北海道などの先進例を取り上げて、地域経済への影響や地域づくりの観点から考えていきます。

【北海道のSDGsを考える】

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことです。地球上の「誰一人取り残さない」ことを謳い、環境・社会・経済の分野に関わる優先課題や目標を設定しています。北海道には、どのようなSDGsの課題があり、どのように取り組んでいくべきでしょうか。環境問題や地域経済について事例をあげて考えていきます。

経済学分野

経済学部 教授 早尻 正宏 HAYAJIRI Masahiro

専門 開発政策論

【森林を使って地域の経済をとり戻す】

北海道の土地面積の約7割を森林が占めます。全国の森林面積のおよそ4分の1を占める広大な森林を、私たちはどのように活用し、地域の発展につなげていくべきでしょうか。国内外のユニークな事例を紹介しながら、地域固有の環境資源に根差した北海道経済のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

【地域の資源 地域の経済】

人口の減少と大都市圏への集中が進み、農山漁村や地方都市が疲弊しています。先人が築き上げた国土の豊かさがいよいよ失われようとしているいま、私たちはどのように地域の衰退に向き合うべきでしょうか。地域固有の環境資源(=地域資源)に根差した地域再生の在り方を一緒に考えましょう。

経済学分野

経済学部 教授 逸見 宜義 HEMMI Noriyoshi

専門 マクロ経済学

【経済学×高校数学×金融リテラシー】

固定金利で借入をした場合、最終的な返済額がどの程度になるのか皆さんは計算したことがあるでしょうか? 利率によっては意外に大きな返済額にびっくりするかもしれません。ということは、やっぱりお金は借りないほうがいい? そう結論付ける前にまずは経済学の重要概念である実質利率について勉強しましょう。

【経済学的考え方】

皆さんに“経済学の世界”を感じ取ってもらうために、インセンティブに着目した考察(シートベルト義務化はいいことか?)、需要と供給の分析の応用例(パパラッチを追い払う方法、麻葉を禁止するとどうなる?)など、経済学でお馴染みの分析例を紹介します。また専門分野ごとの分析アプローチの違いなども紹介します。

経済学分野

経済学部 教授 西村 宣彦 NISHIMURA Nobuhiko

専門 地方財政論

【国と地方の財政～私たちの国・マチは大丈夫ですか?】

国や地方自治体は、私たちの仕事や暮らしを支える様々な公共サービスを提供し、そのために多くの公務員を雇い、多額のお金を毎年支出しています。そのお金はどこから来るのでしょうか。また国や自治体の財政悪化がニュースになることがありますが、もし財政破たんしたら、国や地域は、市民の暮らしはどうなるのでしょうか。具体的なケースを元に考えてみましょう。

【人口減少社会の課題と地域創生】

日本の総人口は2008年をピークに減少し始め、今後減少のペースが加速していく見通しです。人口減少は、経済の停滞、超高齢化と社会保障負担・国債負担の増大、地域の消滅など、様々な課題を突きつける一方、国や地域の経済や社会のあり方を変えていくチャンスにもなります。人口が減る地域の未来をどう描いて、創っていくのか、自分ゴトとして考えてみましょう。

【ふるさと納税とその功罪を考える】

2008年度にスタートした「ふるさと納税」が人気を博しています。寄付をすると、地域の特産品などを「返礼品」として受け取れるシステムが人気の秘訣。多額のふるさと納税を集める自治体では、行政サービスの拡充や地域経済への波及効果などの恩恵が生まれています。果たしてふるさと納税はいいこと尽くめの制度なのでしょうか。功罪両面から考えてみましょう。

経済学分野

経済学部 教授 中園 桐代 NAKAZONO Kiriyo

専門 社会保障論・ジェンダー論

【女性・男性の格差を見える化する】

ジェンダーギャップ指数って知っていますか? これは男女の格差を示し、各国の「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、2025年の日本の順位は148か国中118位、これは先進国で最下位です。アジア諸国の中でも中国、韓国、アセアン諸国よりも低い結果です。日本で特に格差が大きいのは経済です。女性の賃金の低さ、管理職の少なさがその原因です。日本での働き方の現状を知り、何が問題なのか考えてみましょう。女性、男性ともこれからの就職、ライフプランを考える際にも知っていなければならないことです。

経済学分野

経済学部 教授 宮入 隆 MIYAIRI Takashi

専門 農業経済学

【野菜の流通と産地づくり】

北海道は生産額でみて全国一の野菜産地です。玉ねぎやトマトなど道内各地で生産された野菜が日本中に出荷されています。本講義では、野菜が産地から食卓に届くまでの経路を辿ることで、農産物の商品特性や流通面での特徴について考えていきます。また、野菜の産地づくりを通して、北海道農業の特徴や農協の役割、そして地域農業の活性化の課題について一緒に考えてみましょう。

経済学分野

経済学部 教授 平野 研 HIRANO Ken

専門 発展途上国論

【欧米かっ! 欧米化! 欧米か?】

「欧米かっ!」というタカアンドトシのギャグですが、40年前の高度成長期にこのギャグはウケたでしょうか? 欧米型の消費スタイルが日本人にとって憧れであった時代にはピンとこなかったかもしれませんね。このように同じ言葉でも時代背景や価値観によって捉えられ方が違ってきます。今のグローバル社会では「欧米化」はどのように捉えられているのでしょうか? 格差や環境という視点から欧米化を考えてみよう。

【経済王に、俺はなる! ~グランドライン編】

ワンピースの世界を経済学の視点で見よう! 新しい冒険の日々が見えてくる! グランドラインはどこ? メリー号は帆船、海軍は蒸気船? 大航海時代から資本主義の時代への大転換。君の冒険はこれから始まる!

【大学生協から始める国際協力 ~フェアトレード】

適正な価格を通じて途上国の生産者の自立を促すフェアトレード活動。皆さんも日常生活を通じて国際協力をしてみませんか? 本学の大学生協でもフェアトレード商品が販売されています。大学生活の中で世界経済を考えてみませんか?

経済学分野

経済学部 教授 大貝 健二 OGAI Kenji

専門 経済地理学

【地域課題をビジネスで解決する?中小企業の可能性】

「地域経済の活性化が必要だ」という言葉を否定する人はいないでしょう。しかし、実際に活性化に向けた取り組みを進めようとするれば、課題ばかりで「地域にはなんにもない」と諦めてしまうのは何故でしょうか。本講義では、日常のなかで見えてくる地域課題の解決を「自分事」としてとらえ、ビジネスを通じて実践する中小企業のケースから、活性化の本質を考えていきたいと思えます。

【地域経済の活性化って何だろう?】 ~十勝の小麦から考える~

「地域経済の活性化」という言葉を聞いたことがありますか? これは一体、どのような状態を示すのでしょうか。「地域の経済が元気になる」という意味でしょうか、それでは「地域の経済が元気になる」とはどういうことか、具体的に言えますか? この講義では、こうした禅問答になりがちな「地域経済の活性化」について、「小麦」を通じて考えてみたいと思えます。

経済学分野

経済学部 教授 川村 雅則 KAWAMURA Masanori

専門 労働経済論

※いずれの講義テーマにおいても、簡単な事前課題を提案させていただいております。

【人間らしい働き方を実現するために ——若者の雇用・労働のいま】

若者の雇用・労働をめぐる問題が深刻です。就職状況の改善が言われていますが、一方で、仕事に就けても非正規雇用であったり、即戦力としての働きを求められ過労に陥る——ワーキング・プア、ブラック企業、過労死などの言葉が若いみなさんにも「身近」になってしまいました。そうした労働現場の実態や背景を学びながら、人間らしい働き方の実現を一緒に模索してみましょう。

【仕事で困ったときにはどうする? ——若者とワーク・ルールそしてユニオン】

若者の雇用・労働をめぐる状況はキビシイ!! しかしながら当事者であるみなさんが「力」を身につけることでその克服は可能です。その力とは、ワーク・ルールやユニオン(労働法や労働組合)を学ぶことです。これから何十年も働き続ける上で必須のこのテーマを学んでみませんか。[受け入れ側で可能であれば、第1テーマとの連続開講・セットの開講を希望]

【女性差別なんてもうムカシの話? ——女性の労働と男女の生き方を考える】

女性に対する差別なんてもう過去の話。そう思っていないですか。意識することはあまりないかもしれませんが、世界のなかでも日本は、女性の経済・社会・政治的地位が低い国の一つです。雇用・労働の分野における男女の「格差」に注目しながら、この問題について考えてみませんか。その作業は、男女のよりよい生き方を考える第一歩になるはずで。

経済学分野

経済学部 准教授 宇土 至心 UTO Makoto

専門 金融論

【投資のはなし】

近年、日本でも若い世代を中心に、投資への関心が高まっています。高校で金融教育が始まったり、NISA(ニーサ)やiDeCo(イデコ)といった投資の新しい制度ができたりと、投資を始める機会も増えつつあります。この講義では、実際に投資をする際に押さえておくべき大事な基本や、気を付けたほうがよい注意点についてお話します。

経済学分野

経済学部 教授 土橋 康人 DOBASHI Yasuto

専門 国際政治経済学、財政学、英米政治経済史

「世界」を読む目—政治経済と社会文化の接合

「世界」を分析するために必要な視点について考えましょう。政治や経済のみを扱っても、「世界」の大きな流れをうまく捉えることができません。重要なことは、人々の意識や習慣、志向といった社会文化的な要素と政治経済を結合して、グローバル社会を描きだすことです。本講義は、多様な内容を扱う経済学部に対する理解を深めることにもつながります。

「多文化共生社会への道」

多様な文化的バックグラウンドを持つ人々が共存する社会を支えるためには、何が必要でしょうか？海外からの観光客や「移民」の増加に伴い、日々の生活の中で異なる文化を持つ人々と接する機会も増えてきています。この変化する新しい社会が私たちに求める「現代的な感覚」や異文化理解、そして多文化共生社会を支えるために必要な取り組みについて考えてみましょう。

経済学分野

経済学部 准教授 鈴木 雄大 SUZUKI Takahiro

専門 経済統計学

「まさかの? なるほど? ドウミンshow」

地域の特徴は様々な分野に見られます。「食文化」や「方言」などはその代表です。この講義では、北海道(データの制約上札幌が中心になります)の「消費」の特徴がテーマです。消費の特徴を知る手掛かりとなる統計データを紹介し、ちょっとしたゲームを開催したいと思います。北海道(札幌)の消費事情、なるほど! もあれば、何故? もあるかも知れません。

「統計学が経済分析に対する万能の学問である??」

統計学の手法を使ったデータの分析は、とてもよく行われています。皆さんお馴染みの「偏差値」もそのひとつです。ではたとえば、金融市場(「株」や「為替」)の分析に統計学の手法を使ったらどうでしょうか? 私たちはお金持ちになれるでしょうか?

講義では、偏差値のもとになる考え方を解説し、金融市場を例に「統計学の指標を社会経済現象の分析に使ったら?」について考えます。

「裁判になる統計!？」

「私の経験と勘によると、こうだ!」という人と「このデータによると、こうだ!」という人がいたら、みなさんはどちらの意見を信じますか? データは客観的で正しい——そう思われがちですが、実は「使い方」や「見方」を間違えると、まったく違う結論になってしまうこともあります。2025年6月、国が作成したデータ(統計)をめぐる最高裁まで争われた裁判が決着しました。これを題材に、データを正しく読む・使う力の大切さについて一緒に考えてみましょう。

経済学分野

経済学部 准教授 藤田 知也 FUJITA Tomoya

専門 交通経済学・観光経済学・地域経済学

「ローカル鉄道の今後について考えよう!」

コロナ禍が明けた一方で、ローカル鉄道を取り巻く環境は非常に厳しく、赤字なのは当たり前。実際に廃止となった路線も見られます。そのような中、観光列車の導入などローカル鉄道の維持・活性化に前向きな取り組みを続ける鉄道事業者や沿線自治体があるのも事実です。経済学の視点に触れつつ、今後のローカル鉄道の在り方について、お話ししたいと思います。

「経済学とは何か?」

担当教員：本学で決めさせていただきます。

経営学分野

経営学部 教授 佐藤 大輔 SATOH Daisuke

専門 経営学

「経営学とは何か—経済学と経営学の違いを知ろう」

経営学は人の「行為」に焦点を当てる学問です。企業をうまく経営するために、経営者はどうやって顧客から「買う」という「行為」を引き出すか、また従業員からは「働く」という「行為」をどう引き出すかを考えなければなりません。経営学では、このために経済学や心理学、政治学や人文学などの分野からさまざまな理論を応用して使います。また、経営学は他の学問分野の理論を応用するだけでなく、実際に応用するなかでぶつかる理論の限界を超えるために自分なりの工夫を加えて新しい理論を生み出す実践にもこだわります。この講座では、このような応用と実践という視点から経営学が経済学などの他の学問とどう違うのかを分かりやすく説明します。

「企業を成功に導く経営学—「iPhone」はどうやって生み出されたのか?」

「iPhone」や「じゃがりこ」、「きゃりーぱみゅぱみゅ」や「初音ミク」などのように、世の中には画期的なアイデア(製品やサービス、コンテンツ)があふれていて、それらは同時に良く売れています。経営学はこのような新しいアイデアをどうやって生みだし、それを製品やサービスとしてどう売ることができるのかを考える学問です。この講義では、自分なりの「新しい答え」としてのアイデアをどうやって生み出すことができるのかを、一緒に考えていきます。

「アイデアを生み出すための学問「経営学」—経営学を使う仕事ってどんなの?」

よく言われるように、経営学は「実践」的な学問です。経営学を学ぶことは、既にある知識や理論を知る(インプット)力だけではなく、新しい知識・アイデアを自分で生み出す(アウトプット)力を養うことも意味しています。そのため、特に経営学を教える大学教育では、知識をインプットする「勉強」だけでなく、新しい知識をアウトプットするための「研究」に力が入れます。この講義では、大学で実際にみなさんがどのように経営学の「研究」を進めていくのか。そのような力は社会に出てからの仕事にどう役立つのか。さらには、他の学問を学ぶことに対して経営学を学ぶことがどう違うのかなどについて分かりやすく説明します。

経営学分野

経営学部 教授 伊藤 友章 ITO Tomoaki

専門 マーケティング

【スポーツだってマーケティング】

昨今では、営利企業だけでなく実に様々な組織がマーケティングを必要としています。たとえば、ファイターズやコンサドーレなどのプロスポーツチーム、家の近くのスポーツ施設、スポーツクラブ…これらスポーツに携わる組織も、安定した運営をしていくためには、マーケティングのセンスが必要な時代なのです。講義では、スポーツ産業を取り巻いている現状を説明しつつ、このスポーツのマーケティングについて皆さんと考えていきます。(※70分以上の講義の場合はグループワークで行っていきます。)

【ヒット商品の作り方をみんなで考えてみる】

売れる商品を出し続けるにはどうしたらよいか、どの企業にとっても最も重要な課題です。しかし単に、質の良い商品をだすだけでは、値段を下げるだけでは、広告をたくさん打つだけでは、それを実現することはできません。この講義では清涼飲料のマーケティングを題材に、皆さんにも一緒に考えてもらいながら、売れる商品を出し続けるには何が大事なのかを検討していきます。(※70分以上の講義の場合はグループワークで行っていきます。)(※70分未満の場合でもスマートフォンの使用を許可いただければ双方向授業が可能です。)

経営学分野

経営学部 教授 近藤 弘毅 KONDO Hiroki

専門 経営史

【江戸のユニクロ—越後屋のビジネスモデル。】

「越後屋、おぬしも悪よのう」。時代劇でよく聞くこのセリフ、ほんとだったのでしょうか。越後屋は江戸で有名な商人でしたが、悪どころか庶民の味方、現代で言えばユニクロのようなビジネスを江戸時代に展開した呉服店でした。現在まで脈々と続いている越後屋の発展を歴史的に紐解いていきましょう。

【鉄道と生活文化—鉄道が私たちの生活を作った。】

阪神タイガース、西武遊園地、阪急百貨店、田園調布、宝塚歌劇団、東宝・東映映画…、これ全部鉄道会社で作ったって知ってましたか?私たちの娯楽や生活文化の多くを電鉄会社で作ったのはなぜでしょうか。阪急電鉄の創業者である小林一三の生涯を中心に、電鉄会社のビジネスモデルを明治後期に日本という国家が置かれた状況から説明を始めます。

経営学分野

経営学部 教授 今野 喜文 KONNO Yoshifumi

専門 経営学(経営戦略)

【あなたはユニクロとしまむらの違いがわかりますか?!】

日本のアパレル業界の代表的な企業であるユニクロとしまむら。実は、この2社の経営は多くの点で対極的といって良いほどの大きな違いがあります。高校生の皆さんは、この2つの会社がどのような点で違っているのか知っていますか?? 講義の前に、少し考えてみてください。この講義では2社の違いに注目する中で、企業経営の仕組みについて考えてみたいと思います。将来、経済学部や経営学部への進学を希望する高校生は必見です!!

【あなたはどのコンビニがお好き?!—経営戦略で考えるコンビニ業界—】

経営戦略とは会社が大きく成長したり、ライバル会社との競争に勝ち抜いたりするための方針や計画のことです。このため、経営戦略を立てる場合はライバル会社との「違い」を意識することがとても大切です。そこで、本講義では、私たちにとって身近な業界であるコンビニ業界に注目し、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、セイコーマート等の経営戦略の違いについて考えることにしましょう。

【ヒット商品はいかに生み出されるのか?!】

まずはこの講義の結論をお伝えしておきます。それは「良い製品が必ずしもヒット商品になるわけではない」ということです。たとえば、ガリガリ君やペヤングがヒットしたのはなぜでしょうか? この講義では、ヒット商品を生み出す上で大切なことについて身近な事例をもとに考えてみたいと思います。では、この続きは講義で…。

【経営学で考えるカップヌードルのつくり方—ひとつの商品に詰まったビジネスのすべて—】

私たちにとって身近な商品である「カップヌードル」を題材に、経営学の基本を学ぶ講義です。カップヌードルの開発と成長の過程を学びながら、ビジネスや経営学の面白さと社会的意義について考えてみましょう。

経営学分野

経営学部 教授 石嶋 芳臣 ISHIJIMA Yoshiomi

専門 企業論

【ココロで読み解く経営学の世界】

皆さんが勉強やスポーツなどを行う場合、無駄や無理を無くし合理的に行った方が良いと考えますよね? しかし人間は完全に合理的ではありません。明日、何が起こるかなんて判りませんからね。株価や何が売れるかも、合理的であろうとする人間のココロの作用に影響されています。本講では、こうしたココロの作用と経営現象について、皆さんと考えていきます。

【企業不祥事はなくならない?!】

食品表示の偽装や不正取引など、企業の不祥事・犯罪が後を絶ちません。しかし企業は、不祥事や犯罪が発覚した場合、評判を落とし売上が減って、大変な痛手を被ることを知っているはずですが、それでも無くならないのは何故でしょう? 本講では、チェック体制が働かない原因や手抜きやサボリの要因について、経営学を通じて、皆さんと考えていきます。

経営学分野

経営学部 教授 春日 賢 KASUGA Satoshi

専門 経営学(企業と社会・経営学説史)

【ドラッカーを読む】～「新しい社会」と経営学～

『もしドラ』で有名なドラッカーは、日本に最も影響を与えた経営学者・未来論者として知られます。彼は人々にとって望ましい「新しい社会」の実現をめざし、そこにおいて経営(マネジメント)はいかに機能するのか実践的に提示していきました。彼のマネジメント思想を通じて、私たちにどのような経営学とは何かを具体的にお話していきます。

【日本の会社と社会】～セブン-イレブンと流通革命～

街角では色々なコンビニを見かけますが、この業態はもともとセブン-イレブンがはじまりとされています。「便利さ」を売るといふスタイルは社会の消費生活にも大きな影響をおよぼし、セブン-イレブンは今や日本を代表する企業のひとつとなっています。ライバル社との比較を中心に、セブン-イレブンの掲げるコンビニ・ビジネスとその社会的展開について見ていきます。

【良い企業とは?】～そもそも会社ってなんだろう?～

今日の私たちに働くということは、企業との関係を抜きに考えることはできません。ところでこの企業すなわち会社とはいったいどんなものなのでしょう? これからみなさんが働く場としての会社の仕組みとともに、社会における望ましい企業のあり方とはどんなものかについて、みなさんとともに考えてみます。

経営学分野

経営学部 教授 菅原 秀幸 SUGAWARA Hideyuki

専門 国際経営

【グローバル時代のビジネス戦略から学ぶ】

私たちの生活は、外国なくして成り立ちません。国境を越えてヒト、モノ、カネ、企業、情報が飛び交うグローバル時代に私たちは生きています。こんなエキサイティングな現実を分析し、どんなチャンスと課題があるのかを考えます。特に「世界で実際に成功している企業と経営者」の思考様式と行動様式を学んで、いかに現実の世界で役立たせていくかを考えます。詳しくは、<http://sugawaraonline.com>をみて下さい。

【グローバリゼーションと私たちの生活を考える】

グローバリゼーションが進み、地球上の多くの国々が、ますます関係を深め、相互に依存しあうようになっています。その結果として、貧困、格差、環境破壊といったマイナスの側面も顕著になっています。実際に、北米、アジア、欧州、アフリカの各国を旅して目にした経験をふまえて、グローバリゼーションが私たちにもたらすプラスとマイナスの影響について考えます。詳しくは、<http://sugawaraonline.com>をみて下さい。

【世界に出よう。世界は可能性に満ち満ちている】

視野を世界に広げると、これまで見えなかった世界が見えてきます。そこには、新しい驚きと感動がたくさんあります。グローバル化が進む今日の世界の現実を知ると、可能性と課題が山のようにあり、世界のことをもっと、もっと、たくさん理解したいと思うようになります。小さな北海道にとどまらず、広い世界に目を向け、自分の可能性を拓きましょう。北海道から飛び出せ! 詳しくは、<http://sugawaraonline.com>をみて下さい。

経営学分野

経営学部 教授 上田 雅幸 UEDA Masayuki

専門 意思決定(支援)

【Excelソルバーを用いた意思決定】

様々な問題を例に、“経験”や“勘”によらない科学的意思決定について学習する。数値計算にかかる学生の負担を軽減させるために、Excelの「ソルバー機能」を活用する。Excelソルバーの使い方に関しては、講義のなかで解説を行う。



経営学分野

経営学部 教授 今村 聡 IMAMURA Satoshi

専門 会計学・原価計算

【ニュースを見るための会計学】

テレビやネット、あるいは新聞や雑誌記事に「〇〇社、本年度の営業利益は何円、経常利益は何円、そして最終損益は何円」とある場合、それぞれの数字はどのように違うのでしょうか。企業の財務数値の意味と見方を、身近な素材を使って簡単に説明し、またなるべく新しい企業会計のトピックスを紹介することで、会計学とは何を研究する科目なのかを知っていただければと考えています。

【Excelによる指数・対数計算】

以前は複雑で時間がかかった指数や対数を含む計算は、最近ではパソコンのソフトを使って簡単にできるようになりました。Excelソフトを用いた簡単な計算例を紹介しながら、会計学では指数・対数関数がどのように役立っているかを考えます。

経営学分野

経営学部 講師 川津 大樹 KAWAZU Daiki

専門 会計学・財務会計

【SDGs時代の会計学】

従来企業が行っていた情報発信は、お金を中心にした内容でした。ところが、国連で持続可能な開発目標 (SDGs) が採択されて以来、環境や人権の問題への取り組みなど、「お金以外の情報」に対するニーズが高まりました。そこで、実際に上場企業が作成している報告書を題材にして、大きく変わり始めた会計学についてご紹介したいと思います。

経営学分野

経営学部 教授 天笠 道裕 AMAGASA Michihiro

専門 経営情報

【経営活動と情報システム】

今日の企業では、多種多様な経営情報システムを構築して、経営に役立てています。ここに至るまでには、長期間にわたる試行錯誤が繰り返されています。その結果、様々な目的を持った形態の異なる経営情報システムが、時代の進展とともに現れてきています。本出前講義では、これらの経営情報システムについて概説します。

経営学分野

経営学部 准教授 金 倫廷 KIM Yun Jeong

専門 組織論

【あなたは最適な人と結婚できますか?】～意思決定から見る経営学の世界～

私たちは、朝何時に起きるか、何を着て出かけるか、友だちとどこで何をして遊ぶか、どの大学に進学するか、将来どんな職業に就くかなど、常に何らかの選択を行なっています。この何かを選ぶ行為 (問題解決に向けた行為) すなわち意思決定の問題から、経営学という学問がどのような学問なのかを紹介します。

経営学分野

経営学部 准教授 中村 暁子 NAKAMURA Tokiko

専門 経営学・経営組織論・経営管理論

【経営学は社長のための学問なのか?】

経営学に対して、どのようなイメージをお持ちでしょうか。「お金儲けのための学問」、「会社の社長になるための学問」…? いずれの答えも「△」です。もちろんそういった側面もありますが、それだけではなく、実は私たちにとってとても身近な学問です。経営学とはどのような学問なのか、経営学を学ぶことの面白さや重要性をお伝えします。

【経営学とは何か?】

担当教員：本学で決めさせていただきます。

統計・GIS分野

経営学部 教授 関 哲人 SEKI Norihito

専門 情報学

【数学を使わずに学ぶ統計学】～最強の学問への招待～

「統計学は最強の学問だ!」という言葉を目にします。統計学は問題解決の学問と言われ、経済、経営、環境、健康、薬学、医療、工学など多くの分野で使われているからです。この統計学の魅力と考え方について身近な事例を用いてお話しします。なお、本講義は数式を使わないで説明したいと思います。

統計・GIS分野

経済学部 教授 浅妻 裕 ASAZUMA Yutaka

専門 経済政策・環境政策

「GISによる公共交通問題へのアプローチ」

現在、多くの地方で公共交通の衰退傾向がみられています。もともとクルマへの依存度が高かったことに加え、深刻な人口減少に直面し、この傾向に拍車がかかっています。一方、一定規模以上の都市では魅力的なまちづくりのために、公共交通を「都市の装置」として位置付け、積極的に活用する動きもみられています。これらの現代の公共交通に関わる問題を、GISを用いて解き明かします。

「GISによる静脈産業へのアプローチ」

静脈産業は、廃棄物処理・リサイクル・リユースに関わる産業の総称です。価格が安価であったり、逆に処理費用が必要となったりするために、モノを作る動脈産業と同様に、輸送コスト問題への適切な対応が必要です。GISは実際の施設・産業配置を示すことに加えて、適切な立地を導く分析機能も有しています。札幌市などの事例を用いて、この分析を試みます。

「移民の経済学—静脈産業を対象—」

世界では国境を越えた人の移動を前提とした経済活動が多く行われています。リユース・リサイクルに関わる産業（「静脈産業」といいます）はその主たる対象となっています。国内の自動車や金属に関わる産業を中心に、なぜ静脈産業で移民の展開がみられるのか、その経済的・社会的意義や課題は何か、解説します。

統計・GIS分野

複数の教員（経済学部：浅妻 裕・大貝 健二・鈴木 雄大・水野谷 武志／人文学部：谷端 郷）

「北海学園大学のGISカリキュラム」

北海学園大学では、地理空間情報(GIS)に関する講義を複数展開しています。GISは、空間に関わる全ての分野の研究で利用できるものです。1年次から学ぶことができ、4年次の卒業論文等ではGISを用いた本格的な研究も可能です。このカリキュラムの流れと、GISを用いるとどのようなことが出来るようになるのか、ということをお話します。

注意：受講者人数に応じて、複数名の教員が講義・サポートにあたる場合があります。派遣教員は大学側で調整します。

「GISとは何か—ArcGIS Onlineの魅力—」

本学のGIS教育では、どこからでも利用できるwebアプリケーション、ArcGIS Online (AGOL)を用いています。GISとは何か、社会の中でどのように用いられているのかをお話した上で、受講者に、人口・交通・防災・産業分布などを題材として、AGOLを操作していただき、地図作製などを行います。GISの世界への扉を開いてみませんか。

注意1：受講者人数に応じて、複数名の教員が講義・サポートにあたります。派遣教員は大学側で調整します。

注意2：受講生は、1人1台のパソコンとインターネット環境が必要。

社会学分野

経済学部 教授 山田 誠治 YAMADA Seiji

専門 中小企業論

「デジタル・ネットワーク社会の爆発と人間関係の変容」

近年のスマホやインターネットの急速な普及は、身近な友人・家族関係から世界中のヒトやモノにいたるまで情報を介してつなぎあわせ、かつてない便利さを提供しています。しかし、ネット社会の進展がもたらすバーチャルとリアルの混在は、人間や社会の関係にどのように影響し、私たちはネットとどう付き合うべきか、課題をつきつけています。社会科学分野からこの問題を論点から考えます。

「企業社会の変化と働き方」～国際化における企業社会の比較～

21世紀に入り情報化を軸にして急激に変化しつつある企業社会と組織・職場・働き方の将来について、日本や北海道を念頭に置きながらその比較分析と課題について概説します。

社会学分野

経済学部 教授 佐藤 信 SATO Makoto

専門 協同組合学

「日本の人口減少—何が問題か」

日本の総人口は2008年頃をピークとして減少が始まり、将来深刻な問題が発生するといわれています。しかし、見方によってはそうでもないかもしれません。この講義では、人口減少の要因と将来推計を通して、次世代を担う人たちに何が必要かを考えます。

社会学・教育学分野

経済学部 教授 内田 和浩 UCHIDA Kazuhiro

専門 地域社会学・社会教育学

「地域づくりは、『わかるの豊富化』から」～担い手としての社会教育士～

地域づくりとは、だれかが勝手に道路や施設をつくることではなく、その地域に暮らす人々が自ら主体的に自治的に協働して決定し、つくっていくものです。したがって、そこには、1人1人の住民の「わかる」だけでなく、協同的な人々の「わかる」、公共的な「市民」たちの「わかる」が必要です。社会教育士はそのような「わかるの豊富化」を支援する地域づくりの担い手です。

社会学・教育学・語学分野

経済学部 教授 柁木 貴之 MASAKI Takayuki

専門 教育学・言語教育

【国語教育と英語教育をつなぐ】

みなさんは国語と英語がまったく別の教科だと思いませんか？ 今まではたしかにそうでした。でも2022年度から実施になる学習指導要領は、二つの教科が連携することを推奨しています。本講義では国語と英語の連携をめぐる歴史を振り返りながら、今後、両者をいかに結び付けることができるかに関して、全国の授業例を紹介し、一緒に新しい言葉の学びについて考えましょう。

【翻訳から見た日本語・日本文化】

我々は普段生活をする中で、自身の日本語の使い方や、日本文化のあり方について、意識して考えることが少なくなっています。実はその有効な素材になるのは翻訳作品です。一つの作品を翻訳しようとする、言葉の壁、文化の壁が浮き彫りになるからです。本講義ではディズニー映画の日本語字幕やジブリ映画の英語字幕などを扱いながら、日本語・日本文化の特徴について考えていきます。

法学分野

法学部 教授 韓 永學 HAN Young Hak

専門 マスコミ論・ジャーナリズム論

【ジャーナリズムと法】

マスコミにかかわる倫理的・法的諸問題について、最近の状況を中心に検討する。また、取材・報道の自由と名誉・プライバシーの衝突問題を考える。

法学分野

法学部 教授 鈴木 光 SUZUKI Hikaru

専門 行政法

【人を殺したら、必ず刑務所行きか】

どのような犯罪行為に、どのような刑罰が科せられるかは、あらかじめ法律に規定されています。しかし、現実に事件が起きたとき、規定通りの刑罰が科せられるとは限りません。この講義では、殺人を例に考えてみましょう。

【あなたは公務員になりたいですか】

「私は将来公務員になりたいので、高校卒業後は公務員予備校へ入学します。公務員は突然クビにされることもなく、安定した給与がもらえるので安心です。親もそう言っています。」……この考えは、正しいのでしょうか。公務員になるにはどのようなルートがあるか、公務員は解雇されないか、公務員の給与は本当に安定しているか。一緒に考えてみましょう。

法学分野

法学部 教授 草間 秀樹 KUSAMA Hideki

専門 商法

【身近な商法の話】 ～もしも旅館で物が盗まれたら…～

旅館や飲食店など施設の利用を提供することによってお金を儲けている商人のことを場屋業者という。本講義では、旅館のフロントに預けておいた物が無くなってしまったり、駐車場にとめておいた車の中の物が盗まれた場合には法律上どうなるのか、また旅館などで見かける張り紙(盗難があっても業者は一切責任を負いません!)の効力などについて述べる。



法学分野

法学部 教授 神元 隆賢 KANMOTO Takayoshi

専門 刑法

【死刑存廃】

今日では、死刑は世界的に廃止される潮流にあるが、わが国では死刑は依然として存置され、世論の多くも死刑の存続を望んでいるとされる。はたして死刑は廃止すべきであるのか、廃止すべきであるならばどのような刑をもって死刑を代替すべきであるのかを、諸外国の死刑存廃の状況を踏まえて検討する。

【振り込み詐欺の現状と対策】

近年、キャッシュカードやインターネットバンキング、携帯電話の普及により、犯人が携帯電話を用いて被害者を騙し、犯人側の預金口座に預金を振り込ませる、いわゆる振り込み詐欺が多発し重大な社会問題となっている。この振り込み詐欺の態様と現状、振り込み詐欺を防止するための各種立法と対策について解説する。

【SNSと刑法】

mixi、Facebook、Twitterなどのソーシャルネットワーキングサービス、いわゆるSNSは、歴史が浅いにもかかわらず、自己表現のためのツールとして急速に普及した。しかし、それとともに、反社会的言動をSNSに投稿した者が、第三者に個人情報を特定されて「炎上」、警察に通報されるなどして法的責任を問われる事態も多発している。この講義では、SNS投稿にかかる刑法上の諸問題について解説する。

【薬物犯罪とその対策】

わが国では、麻薬、あへん、大麻、覚せい剤、有機溶剤（シンナー等）の乱用が法律により規制されている。この講義では、これら規制薬物それぞれの詳細、その乱用がもたらす心身の危険、さらに薬物犯罪の動向、特徴及びそれに対して国の採る対策について解説する。

【資格試験・公務員試験における法律学・政治学】

法律学、政治学の各分野は、司法試験、司法書士、行政書士、宅地建物取引主任士などの資格試験や、国家公務員、地方公務員、市役所上級などの公務員試験において、主要な試験科目となっている。この講義では、法律学・政治学の主要分野の概要を説明したうえで、各種資格試験・公務員試験と法律学・政治学の関係及び配点について解説する。

法学分野

法学部 教授 菅原 寧格 SUGAWARA Yasunori

専門 法哲学

【法学部で学ぶということ】

法学部では何を学ぶことができるのだろうか。法学部へ行きたい人はどのような準備をしておくべきなのだろうか。そもそも高校までの科目には無い「法学」を学ぶとはどういうことなのだろうか。この授業では、大学で「法学」を学ぶということの意味をスケッチし、「法学」をめぐる皆さんのイメージを膨らませてみたいと思います。

【法と法律】

「法」とはなんだろう。「法律」とはなんだろう。分厚い六法全書に書いてあるものだろうか。固くて融通がきかないもの。そうしたイメージを持つ人は多いだろう。では、なぜ、私たちは、「法」や「法律」に対してそのようなイメージを持っているのだろうか。この授業では、皆さんが当たり前だと思っていることを疑うことから、法学の世界をのぞいてみたいと思います。

【法的思考のイントロダクション】

「法」の世界には、独特の考え方がある。例えば、なぜ人は約束を守るのだろうか。皆さんは真剣に考えてみたことがあるだろうか。そもそも「約束を守る」とはどういうことなのだろうか。ただ結ばれただけの約束ならば、そこに意味はあるのだろうか。ここでは、人と人との間で交わされた約束事の例を通じて、「法」の世界に独特の考え方を探ってみることにしよう。

【法と正義】

古来より「法」の目的とは「正義」を実現することにある、といわれてきた。果たして、「正義」はキレイ事にすぎないか。もし、「正義」とは真に正しいことであるならば、「真に正しい」とはどういうことなのだろうか。「地球の平和を守るため、これが最後の戦いだ!」という戦争は、正しいことになるのだろうか。ここでは、「正義」とは何かについて、改めて考えてみよう。

【「法」が先か「政治」が先か】

何かを決めることが「政治」であるなら、「法」は「政治」によって作られるものなのだろうか。それとも、「政治」における決定は「法」に従って下されなければならないのだろうか。そうであるとするれば、「法」は「政治」に先行して存在するということになるのだろうか。この授業では、「法」の起源を「政治」との関係から考えてみたいと思います。

法学分野

法学部 教授 稲垣 美穂子 INAGAKI Mihoko

専門 倒産法

【法律の世界】

日本には現在2200を超える数の法律があります。法学部に入学すると、これら全ての法律の条文を覚えなければならないのでしょうか？ いえ、そうではありません。あらゆる法律を読み解くキーワードとして、リーガルマインドと呼ばれる基本的な思考の道筋があります。実はこれを理解することが、法学部での勉強の第一歩なのです。このことを、わかりやすく紹介します。

法学分野

法学部 教授 四ッ谷 有喜 YOTSUYA Yuki

専門 民法

【身近な事例で民法入門!】

買う、借りる。地下鉄に乗る……。実は全て民法という法律が適用される場面です。こうした身近な事例を素材に、民法という法律と一緒に学びましょう。

法学分野

法学部 教授 谷本 陽一 TANIMOTO Yoichi

専門 民法

【学校と民法】

社会の基本ルールである民法について学校を舞台に講義します。民法は、自分と他人との関係や自分と財産との関係を定めるルールですので、人々の日常に密着したのですが、たいていの人は民法に無自覚です。そんな民法が活躍するのは、当事者の話し合いでは解決できないトラブルが起こった場面です。学校で事件が起こったとき、民法がどう活躍するかを一緒に考えてみませんか。

【このトラブル、どう解決する?】

職場で、家庭で、学校で様々なトラブルが起こります。そんなとき、どのようにしてトラブルを解決すればよいのでしょうか。法律学はこうしたトラブルの解決方法も教えてくれます。話し合いで解決できるか、誰かに間に入って助けてもらうか、それとも裁判所に駆け込むか、どんな解決方法があるのでしょうか? この講義では、トラブルとそれに対する色々な解決方法を考えていきます。

法学分野

法学部 教授 大滝 哲祐 OHTAKI Tetsuhiro

専門 民法

【法はなぜ生まれ、どこに向かうのか?—共に生きるための知恵の歴史】

古代のハムラビ法典から現代のAIやSNSまで、法は人が共に生きるための知恵として発展してきました。ローマ法やナポレオン法典の理念は日本の民法にも受け継がれています。社会が変われば法も変わります。AIと著作権、気候変動、家族の多様性などの課題を通して、法を学ぶことは共に生きる社会の未来を考える手がかりとなります。

法学分野

法学部 准教授 岡本 直貴 OKAMOTO Naoki

専門 経済法

【法学入門】なのだ

この講義は、「法学」の入門的知識と、ものの考え方を提示しようとするものです。まず、普段は「法」とは無縁な(と思われる)市民の、「法」ないし「法学」に対するイメージを提示します。次いで、具体的な事例を念頭に置きながら、「法とは何ぞや」、「法はどのようにして用いられるのか」、を概観します。最後に、これから「法学」に興味を持っていただき、その学習に「着手」するための心得めいたものをまとめることにより、結びにかえることとします。

【『公正かつ自由な競争』と法～独占禁止法とその周辺】

この講義は、経済政策に関する法規群(独占禁止法、景品表示法、下請法など)の内容と実際の運用を概説するものです。大学の法学部では、「経済法」という科目に当たります。普段耳目に接する(しかしなかなか気づかない)経済に関するニュースを追いながら、この法分野の全体像を示します。その内容は、カルテル、談合、独占、IT、プロ人材、ビッグデータ、不当表示、などなど様々です。

法学分野

法学部 准教授 菅野 直之 KANNO Naoyuki

専門 国際法

【国連は何をやるどころ?】

皆さんは、国連に対してどのようなイメージを持っていますか? 現代の国際社会には、戦争や人権侵害などの多くの課題がありますが、そうした課題に対する国連の取り組みについては、知られていない部分も多いのではないのでしょうか。この講義では、国際社会で国連がどのように活動しているのかについて、学んでいきたいと思えます。

【法学とは何か?】

担当教員：本学で決めさせていただきます。

政治学分野

法学部 教授 本田 宏 HONDA Hiroshi

専門 政治過程論

【ドイツの政治を知る】

連邦制や議会制度、選挙制度などの特徴や、主要政党、歴代政権の首相や連立与党、最近の選挙や政治全般の動きなど、ドイツ政治の基本について解説します。

政治学分野

法学部 教授 井上 睦 INOUE Makoto

専門 政治学・比較政治学・福祉政治

【個人的なことと政治的なこと】

「政治」と聞くと、自分とは関係のない、遠い世界のように思いがちですが、実は、家族・友人・恋人関係から学校・職場まで、私たちの日常に当たりまえのように存在しているものです。講義では、「政治」の重要な概念である「権力」を切り口に、私たちの普段の思考や行動がどのように形成され、遠くに見える政治の世界とどう繋がっているのかを考えてみます。

政治学分野

法学部 准教授 高橋 美野梨 TAKAHASHI Minori

専門 地域研究

【ボードゲーム『The Arctic』—地球沸騰化時代の北極】

北極は地球全体の変化が先取りして現れる場です。北極の気温は全世界の年平均と比べて約3倍の速さで上昇しています。いま北極で何が起きているのか。それは私たちの暮らしとどのようなつながりがあるのか。ここでは、変わりゆく北極の今を知り、未来を考えることを目的に開発されたボードゲーム『The Arctic』を体験しながら、私たちの眼前に迫る課題に向き合いたいと思います。

※講義時間の有効活用のため、①事前にボードゲームのセッティング、②4～6人のグループ分けを希望します。

政治学分野

法学部 教授 高橋 義彦 TAKAHASHI Yoshihiko

専門 政治思想史

【デモクラシー(民主主義)とは何か】

デモクラシー(民主主義)という言葉で何を思い浮かべますか。「選挙に行くこと」、「多数決で決めること」、そういう風に考える人が多いのではないのでしょうか。しかし、デモクラシーという制度の元祖である古代ギリシアでは、選挙ではなく「くじ」で選ぶことこそ民主主義的だと思われていました。「デモクラシーとは何か」をこの講義では掘り下げて考えていきます。

政治学分野

法学部 准教授 十河 和貴 SOGO Kazutaka

専門 日本政治史

【日本の政党政治を歴史から考える】

世界各国と比較したとき、日本の政党政治にはどのような特徴があるのでしょうか。そしてその特徴は、戦前日本が辿った政治の歩みとどのように関わっているのでしょうか。この講義では、大日本帝国憲法のもとでの政党政治の歩みを、当時の政治家の視点から掘り下げて考えることで、歴史の延長にある現代日本の政治を捉えていきます。

【植民地統治からみる日本近代史】

戦前期、韓国・台湾はともに植民地として日本の統治下にありました。よく「韓国は反日」、「台湾は親日」といわれますが、なぜこのような歴史認識の違いが生まれるのでしょうか。日本史ではあまり扱われない植民地統治の歴史から、近代日本の政治とそれが今日の国際関係に及ぼした影響を考えることで、「大学で学ぶ歴史」に触れてみましょう。

政治学分野

法学部 准教授 津田 久美子 TSUDA Kumiko

専門 国際関係論、国際政治経済学

【SDGsの読み解き方】

SDGs=持続可能な開発目標とは17個の国際目標で、貧困・環境問題などに関わる目標がある...ということは知られていても、意外と知られていないことがあります。誰もが自由に取り組むもの?中でも大事にすべき最重要理念は?達成できなかったらどうする?普段とはちょっと違うかもしれない<国際政策>の観点から、SDGsの読み解き方を考えます。

【政治学とは何か?】

担当教員：本学で決めさせていただきます。



心理学分野

経営学部 教授 佐藤 淳 SATO Jun

専門 学習心理学

「なぜ学校で習ったことを日常に活かさないのか」

ある法則や理論が示されたときに、それを正しく適用して問題解決を行うことを、演繹的推論といいます。その典型は、学校教育に見ることができます。学校では、科学的法則が教えられ、それを日常場面に適用できるようにすることがめざされているからです。しかし、法則を知ってはいても、それを使えない、使わないといったケースがよく見られます。ここではその理由を探ります。

「山頂の缶ジュースはなぜ高いのか～経済認識の誤り」

私たちは、中学校の公民や高校の現代社会などの教科で、市場経済の基本原則をすでに学んでいます。しかし、日常の経済現象にはそれらの原則を適用して考えることをしない傾向が指摘されています。ここでは、さまざまな経済認識の誤りを紹介して、なぜそのような誤りが生じるのかを、心理学の立場から説明します。

心理学分野

経営学部 教授 鈴木 修司 SUZUKI Shuji

専門 心理学

「間違いだらけの意思決定」

ヒトは毎日、いろんなことを決めています。「何を食べようか?」、「どこの大学を受ける?」などなど。もちろん、下手な決定をしたくはありません。でも、後悔が後を絶たないのも事実です。何故なのでしょう? 心理学はその理由を明らかにしてきました。本講義では、デモンストレーションを通して、失敗を経験し、修正する手立てを考えていきます。

「“知識の呪い”—経験重視主義の誤謬—」

学生でも会社員でも、学校でも企業でも判断は必須科目です。判断のとき、重視されるのが知識。もちろん、知識は学校でも習います。でも、特に自分の経験という知識を重視する人が高校生に、大学生に、もちろん社会人にも多くいます。それでは知識に頼った判断は“常に”正しいでしょうか。どんなときに頼ってはダメなのでしょう? 講義を通して、知識の役割を実感して欲しいと思います。

心理学分野

経営学部 教授 増地 あゆみ MASUCHI Ayumi

専門 組織心理学

「集団は賢いか」～体験ゲームを通じて考える～

「三人寄れば文殊の知恵」ということわざにあるように、人が集まって知恵を出し合うことで、ひとりではできない問題解決や意思決定が実現できることがあります。賢い集団になるためには、そのメンバーひとりひとりに何が必要となるのでしょうか。簡単な体験ゲームを使って、集団のコミュニケーションのあり方について考えます。

「人を動かす”コミュニケーションとは」

私たちは、自分の普段の行動や選択は“自分で決めている”と思っています。しかし実際は、他者や状況の力など、様々なものによって動かされています。たとえば買い物の場面では、商品の広告、商品の展示方法、店員の商品説明、友人の勧め、他の客の購買行動など、選択には多くの要因が影響します。そこに見出される様々な心理的効果の働きについて、体験(デモ)を交えて紹介します。

心理学分野

法学部 教授 後藤 聡 GOTO So

専門 教育心理学

「カウンセリングとは何だろう?」～ちょっとだけのぞいてみませんか?～

悩んだり困ったりしていることを誰かに話すとき、相手がどのように関わってくれたかで相談した人の気持ちは随分と異なります。どのように聴くのか、相手の気持ちを理解しようとするときに何が邪魔をするのか、相手を受け容れるということはどういうことかなど、そのようなことを大切に考えるカウンセリングとは奥深い人間関係の営みです。ちょっとだけのぞいてみませんか。

「誤りから考える人間関係の心」

人は様々な誤りをおかします。考える、見る、記憶する、言うなど、すべての活動に誤りがあります。その中で、人間関係で起こる誤りのいくつかをお話します。自分にも当てはめて考えてみませんか。

「教員免許の仕組みと教員になるための道のり」

教員免許(教育職員免許状)や教員になるための仕組みはちょっと複雑です。小学校、中学校・・・学校教育法という法律で示された学校の種類だけでも9つあります。教員免許の種類も7つあります。それぞれの免許がさらに重みの違う複数の免許の種類に分かれています。勉強しなければならない内容や量も免許の種類によって異なります。教員になるための方法は公立学校と私立学校とでは異なります。大学の学校案内だけでは理解が難しい免許取得の全体的な仕組みと教員になるために歩まなければならない道のりについて解説します。

心理学分野

経営学部 教授 田中 勝則 TANAKA Masanori

専門 臨床心理学

【大学生活を楽しむために!～学生生活と心の健康入門～】

大学生活は一生の中でも最も楽しい時期の一つです。一方、生活の中にはあちこちに落とし穴も潜んでおり、一歩踏み間違えるとせっかくの楽しい日々も台無しになりかねません。この講義では、大学での生活を送る上で気をつけておきたいことを先回りして学びます。受験勉強への動機づけを高めるだけでなく、皆さんの日々の心の健康について振り返る機会になることを狙っています。

【性格に関するホントとウソよりよい人間関係のために】

「あなたはどんな人ですか?」性格はその人らしさを特徴づける一つの考え方です。私たちの身の回りにも性格を知るための様々なテストやゲームなどが存在します。しかし、それらはどれくらい確かなものなのでしょう? この講義では、高校ではまだまだあまり触れる機会のない心理学の紹介を行いながら、この謎に体験的に迫っていきます。

【心の健康に関連するカラクリ】

大好きなあの人にフラれてしまった。もう、一生こんな出会いはない…。確かにつらく、悲しいエピソードですね。しかし、同じようなつらい出来事を経験していても、そのダメージの大きさやそこから立ち直りには人によって差があります。その違いは何なのでしょう?この講義では心の健康に関連するカラクリについて焦点を当て、概説していきます。皆さんも、健康を支える自分の心のカラクリについて、覗いてみませんか?

心理学分野

経営学部 准教授 中川 裕美 NAKAGAWA Yumi

専門 社会心理学

【私たちと彼らの境界—集団間関係を理解する—】

小学校の運動会で白組と赤組に分かれて競い合った経験はありませんか?自分の組を勝たせようと必死で頑張っていませんでしたか?なぜ、そのようなことが起こるのでしょうか。その答えの一つは、「私たち (白組/赤組)」と「彼ら (赤組/白組)」という集団間関係が成立するからです。個人が集団の一員として行動するとき何が起こるのか、身近な事例を基に紹介します。

【スポーツファンの熱狂】

熱狂的なスポーツファンによる集団行動には様々なものがあります。同じチームを応援するファン同士で仲良くする一方、ライバルチームのファンには敵対的な振る舞いをしてしまうなどが挙げられます。スポーツ観戦は娯楽の一種ですが、ただ楽しいだけではありません。人々を熱狂の渦に巻き込み、集団行動へと誘う引力があります。熱狂の心理学の話聞いてみませんか?

歴史学分野

人文学部 教授 大森 一輝 OMORI Kazuteru

専門 アメリカ史

【人種差別はなくなったのか?】

人種差別は過ぎ去った昔の話なのでしょうか? 差別されるのは黒人だけなのでしょうか? アメリカでは酷かったが、日本には人種差別はないのでしょうか? 人種の「るつば」や「サラダボウル」というイメージと現実との違いに着目しながら、「人種」という考え方の根深さの歴史と現状を一緒に考えてみましょう。

歴史学分野

人文学部 教授 片岡 耕平 KATAOKA Kohei

専門 日本中世史

【日本中世における生と死】

生まれること、死ぬことは、人間誰もが経験します。しかし、これらをどのような出来事として受け止めるかは、時代や場所によって全く異なります。したがって、これら2つの現象から、時代ごと、場所ごとの人間観を明らかにすることができます。この講義では、特に日本中世社会(平安時代～室町時代)の中で、これらがどのように受け止められていたのかを明らかにします。

【日本古代・中世における時間の流れ】

時間は、過去から現在、そして未来へと流れている。そのことを疑ったことはありませんか?古来、人間は時間の流れを把握し、表現するための工夫を重ねてきました。その結果見出されてきたのは、必ずしも過去から未来への一直線という流れだけではありませんでした。この講義では、日本古代・中世社会(奈良時代～室町時代)にどのような時間が流れていたのか、その一端を明らかにします。

歴史学・政治学分野

経済学部 教授 小林 淑憲 KOBAYASHI Yoshinori

専門 西洋政治思想史

【思想史って何だろう?】

この講義では『思想史って何だろう?』というテーマで、思想史と哲学との違い、いろいろな思想史、思想家と彼(女)をめぐる状況、これまで私がやってきたこと、についてお話しします。17世紀の思想家パスカルによれば、人間は蒸気や一滴の水にも負けてしまう、か弱いひとくきの葦のようだけど、考えることのできる強さを持っているといえます。個々の思想家はどのような理由で政治や社会について、かくかくしかじか考えたのでしょうか。

歴史学・政治学分野

人文学部 教授 仲丸 英起 NAKAMARU Hideki

専門 イギリス近世・近代史

[近世イギリスにおける議会制度]

イギリスは議会制度発祥の地と言われます。しかし、全ての国民が等しく政治的権利を有するという理念が定着し、選挙に際して一人一票を投票できるようになったのは、実は20世紀に入ってからでした。この講義では、近世イギリス(イングランド)における議員選出の実態を見ることで、議会制度が持つ意味を考えてみたいと思います。

[ミステリー小説から見るイギリス近現代]

コナン・ドイルの小説「シャーロック・ホームズ」シリーズや、アガサ・クリスティの小説「エルキュール・ポワロ」シリーズには、19世紀末から20世紀前半のイギリスを知ることのできるヒントが数多く含まれています。この講義では、ミステリー小説を通じて近現代イギリスの歴史について考えてみたいと思います。

歴史学・政治学分野

法学部 講師 伊故海 貴則 IKOMI Takanori

専門 日本近現代史

[明治維新と議会制度の導入—地域の視点で考える—]

明治維新を経て、日本社会には議会というそれまでになかった制度が定着しました。しかし、議会が帝国議会に先行して、府県(地方)で導入されたことは、教科書でも取り上げられることが少ないのではないのでしょうか。それでは地方の人々は、新しい制度である議会をどのように受け入れていったのか?地域の視点から議会の導入という明治維新のインパクトを考えてみたいと思います。

[北海道の近代社会史]

教科書には、帝国議会や明治地方自治制については記されていると思います。一方で、北海道では当初、参政権が道民に与えられていなかったことや自治制が導入されていなかったことは詳しく記述されていないのではないのでしょうか。本講義は北海道の近代社会史と題して、北海道という地域の視点から近代日本の歴史を考えていきたいと思います。本年度は北海道の移民村落を扱います。

文化学分野

人文学部 教授 柴田 崇 SHIBATA Takashi

専門 メディア論

[メディアが創る未来／メディアで創る未来]

先生が教科書を読んで板書をし、それを生徒が覚えるという授業が、印刷機をヒントにしたものだということを知っていますか?AI、特に生成AIのような新しいメディアの登場は、今まさに古いメディアがつくった社会を大きく変えつつあります。メディアの歴史を手がかりに、新しいメディアが創る未来のかたちについて考えます。

[サイボーグの過去・現在・未来]

サイボーグは、サイエンスフィクションとハードサイエンスの間を往復しながら成長し、今日、ますます存在感を高めつつあります。「サイボーグ」という語は1960年にアメリカで誕生しましたが、身体を加工する技術と捉えるならば、その起源はさらに過去へと遡ります。サイボーグの技術が人間と社会に与える影響について、技術哲学および思想史から読み解きます。

文化学分野

人文学部 教授 大石 和久 OISHI Kazuhisa

専門 映画美学

[アニメの中の北海道]

私たちの住む北海道はアニメの中にしばしば登場してきます。例えば、『カムイの剣』(りんたろう、1985)、『雲のむこう、約束の場所』(新海誠、2004)、『思い出のマーニー』(米林昌弘、2014)、あるいはテレビアニメ『ゴールデンカムイ』(難波日登志、2018-2020)などを挙げる事ができるでしょう。さて、それらのアニメの中で、北海道はどのように描かれてきたのでしょうか。そのイメージについて考えます。

文化学分野

人文学部 教授 佐藤 貴史 SATO Takashi

専門 思想史

[『聖書』には何が書かれているか?]

世界のベストセラーである基督教の『聖書』(旧約聖書と新約聖書)の内容を知っていますか? 怪しい迷信の寄集めでしょうか? 確かに普通の常識とは両立しない部分もありますが、同時に「自由と義務」「他者との共生」「自然世界の保護」といった現代の問題がすでに先取りされています。『聖書』を通して異文化を理解し、現代世界を見てみましょう。

[アメリカの建国と基督教文化]

アメリカがどのようにして成立したか知っていますか? ヨーロッパ、特にイングランドとの関係や基督教の影響を無視して、アメリカ文化は理解できません。アメリカは、つねに「自分たちは何者か」という問いを持ちながら前進しています。この講義では基督教文化の視点からアメリカの成り立ちとアメリカ社会の状況について考えてみます。

文化学分野

工学部 教授 原井 憲二 HARAI Kenji

専門 絵画・インスタレーション

「現代美術の見方・楽しみ方」

上手いとか綺麗とか、そんな作品ばかりだったら解釈も楽ですが、ご存知の通り作品には、なぜこれが芸術なのか全く意味不明なものも少なくありません。どちらかというと現代美術は後者ですが、時代とともに進化した現代の美術ですから、古典美術や印象派ばかりを美術の王道だと感じる大衆目線も少し悲しく思います。一度現代美術に触れてみませんか。画像を見ながら作者の狙い等について一緒に考えてみましょう。

文化学分野

法学部 教授 北原 博 KITAHARA Hiroshi

専門 ドイツ文学・ドイツ文化

「文学の中の秘密結社」

映画などにしばしば登場する秘密結社。みなさんは荒唐無稽なものだと思いませんか。しかし、18世紀のヨーロッパでは秘密結社の一員になることが流行し、多くの著名人が参加していました。この講義では主にドイツ語圏の文学作品を手がかりに、当時の秘密結社が果たした役割、結社への人々の期待を明らかにしてみたいと思います。

「モーツァルト『魔笛』の時代背景を読む」

『魔笛』はしばしばオペラ入門に薦められる作品ですが、実際に舞台を観てみると、筋の混乱したよく分からない作品でもあります。しかし、モーツァルトも属していた秘密結社を考慮に入れると、一見混乱しているように見える筋は明快なものとなります。この講義では、当時の結社の儀式を手掛かりにしてオペラの台本を読み解いてみたいと思います。

「ドイツってどんな国？」

ドイツといえば何を連想するでしょうか。サッカー？ 環境先進国？ 技術の国？ ヒトラー？ ドイツは知っているようで案外知らない国なのかもしれません。この講義では主に現代ドイツの社会、文化などを紹介することで、異文化体験に誘います。異なるものの考え方に触れることで、幅広く柔軟な思考を身につけるきっかけとなればと思っております。

文学分野

法学部 教授 中根 研一 NAKANE Kenichi

専門 中国語・中国文学・中国文化

「怪獣のいる中国文学史」

中国では神話時代から21世紀の現代まで、妖怪・怪獣の物語が絶えることなく紡ぎ続けられてきました。ある時は災害のメタファー、ある時は異国・異人への畏れの象徴として等々……。日本にも様々な影響を与えたそれら怪獣たちの文学作品を、一緒に読み解いていきましょう。意外にも皆さんの身近なところに、彼らの末裔が潜んでいますよ。

文学分野

経済学部 教授 北原 寛子 KITAHARA Hiroko

専門 ドイツ文学

「シューベルト『魔王』でドイツ語を学ぶ」

ドイツ語歌曲の傑作とされるシューベルトの『魔王』は、小学校の音楽の授業で鑑賞した人も多いと思います。詞はドイツ文学最大の詩人ゲーテの作品がそのまま採用されています。この味わい深い文学作品を通して、ドイツ語を学んでみましょう。文法の特徴を紹介し、その後で発音を練習します。うまくいけば、みんなで歌えるかもしれません。

「すぐに使えるドイツ語30語」

ドイツ語を学ぶ予定はないけれど、将来ドイツに旅行に行きたいとは思っている……。そんなあなたにぴったりのドイツ語30語を厳選してお伝えします。「あ、そう!」はドイツ語でもまったく同じ、ア、ソー! だったりして、意外な発見もきっとあるはずですよ。

文学分野

人文学部 教授 森川 慎也 MORIKAWA Shinya

専門 英文学

「英語で文学を楽しむ」

英語学習の延長として「英語で文学を楽しむ」という目標を立ててみませんか。本講義では、英語文学に出てくるさまざまな英語の言い回しや言葉の仕掛けを紹介いたします。英語の小説では言葉の選択によって皮肉が効いていたり、シェイクスピアの劇には現代の格言になっている表現も出てきたりします。一緒に英文学の森を散策しましょう。

文学分野

人文学部 准教授 関本 真乃 SEKIMOTO Masano

専門 日本古典文学

「鎌倉時代の作り物語」

『源氏物語』はその成立以降現在にいたるまで、千年以上にわたって人々から愛され続けています。『源氏物語』が鎌倉時代どのように読まれていたのか、また『源氏物語』の愛読者たちが、どのような工夫を用いてそれぞれの物語を作っていたかを解説します。

「『源氏物語』の女君の「顔」

普段何気なく使っている「顔」という語ですが、平安時代「顔」を見ることは特別な意味を持っていました。『源氏物語』において、女君の「顔」は隠されるものとして意識されます。「顔」を見ることの意味、「顔」という語をキーワードに、『源氏物語』における男女の愛に迫ります。

文学分野

人文学部 教授 田中 綾 TANAKA Aya

専門 日本近現代文学史・短歌創作

【小説のヒミツ、おしえます。—「顔」をキーワードに】

近代(明治期)以降の小説には、「顔」の描写が多いという特徴があります。データを見ても、夏目漱石や芥川龍之介の小説で、「手」の次に多く登場する身体語が、「顔」。なぜ、「顔」が注目されるようになったのでしょうか？ また、「顔」はそもそも、何をあらわすものなのでしょう？ 「顔」やファッションの描写を具体的に読みながら、その「ヒミツ」を、一緒に考えていきましょう。

【芥川龍之介も太宰治も・・・作家はみんな(検閲)をうけていた】

国語の教科書で学んでいる「羅生門」や「こころ」、「走れメロス」などの小説、おもしろいですか？ おもしろいのは、実は、そのウラ側。近代(明治期)以降、1945年の敗戦まで、小説も(検閲)を経て発表されていました。1945年以降もひそかに、GHQによる(検閲)がありました。教科書には載っていない文学史——「大学」ならではの講義内容を、聞いてみませんか？

【短歌創作ワークショップ】

「靴紐を結ぶべく身を屈めれば全ての場所がスタートライン」(山田航)——X(旧Twitter)世代に親しみやすい、現代短歌。「五七五七七」という定型に言葉をあてはめるだけで、あなたの生活が「詩」に生まれ変わります。「自己紹介に短歌を活用しよう!」「～のような私」「SNSふりがな短歌」など、実践的な「お題」を用意していますので、ご相談ください。

【読んでみよう、三浦綾子—旭川出身のミリオンセラー作家の魅力】

旭川市出身の作家・三浦綾子(1922～1999年)の小説は読んだことはありますか？ 旭川の市街を舞台とする『氷点』は、何度も映画やテレビドラマになりました。また、『塩狩峠』『泥流地帯』などもミリオンセラーで、今も全国のファンが読書会を続けています。なぜ、三浦文学は、それほど多くの読者を魅了しているのでしょうか。三浦綾子記念文学館3代目館長でもある講師が、画像なども使って、わかりやすくお話しします。

人類学分野

人文学部 教授 小松 かおり KOMATSU Kaori

専門 生態人類学

【バナナとグローバリゼーション】

わたしたちは、毎日バナナを食べながら、実以外のバナナも、誰がどこで作っているのかもよく知りません。作る人と食べる人が互いを知らないバナナです。しかし、バナナには、もうひとつの世界、地域で食べられる豊かな農と食の世界があります。どうして、二つの世界は分かれているのか、現在の農と食のグローバリゼーションについて、バナナから考えます。

人類学分野

人文学部 教授 須田 一弘 SUDA Kazuhiro

専門 生態人類学

【人類と文化】

人類はいつごろ、どこで誕生したのでしょうか。また、人類と他の霊長類(サル)との共通点はどのようなもので、違いはどんなことなのでしょう。こうした疑問について、人類固有の特徴である文化の意味を考えながら、具体的なことから例をあげてお話しします。

歴史学・人類学分野

人文学部 教授 手塚 薫 TEZUKA Kaoru

専門 歴史学・人類学

【「クナシリ・メナシの蜂起」の世界史的な意義】

本講義では、フランス革命と同じ1789年に蝦夷地で勃発したこの蜂起が、なぜ北日本というローカル地域における日本史の一事件ではなく、主要な世界史上の出来事と捉えられるのかについて考えます。最新の千島列島における日口米の研究者らによる国際学術調査の進展が、この問題を検討するうえで重要な手がかりを提供してくれます。

文化学・歴史学・語学分野

経済学部 教授 辻 弘範 TSUJI Hironori

専門 韓国・朝鮮語、韓国・朝鮮史

【社会科学における“発展”とは何か?】～韓国を例に～

世界には、歴史・宗教・文化などの影響をうけながら、さまざまな形の社会や経済システムが作られています。その一方で、それらの違いをもとに、社会や文化を「進んでいる」「遅れている」と判断する見方も根強く残っています。ここでは、隣国である韓国の社会経済のあり方を例に、「発展」とはいったいどういうことなのか、考えてみたいと思います。

【人を惹き付ける都市】～北海道・日本・朝鮮半島～

人々はなぜ都市に集まるのでしょうか。都市は「何」で人々を惹き付けるのでしょうか。その論理は、世界の国や地域がこれまで歩んできた歴史や、その中で築かれてきた文化によってさまざまです。北海道の近代的な開拓都市、日本の伝統的な都市である「城下町」、そして朝鮮半島の伝統的な都市である「邑城」を例に、その理由を考えてみましょう。

【ハングルを知る、言葉を知る】

朝鮮半島で使われている文字「ハングル」は、15世紀半ばに人間の発声器官(唇・舌・歯など)を観察して作られました。そのため、記号1つ1つの形はシンプルで、使い方もたいへん合理的です。また、ハングルを知ることは、私たちが話す言葉を知ることにもつながります。ハングルの特徴や使い方を学んだ後、北海道の地名や自分の名前をハングルで書いてみましょう。

「日本文化とは何か？」

担当教員：本学で決めさせていただきます。

「英米文化とは何か？」

担当教員：本学で決めさせていただきます。

地理学分野

人文学部 准教授 谷端 郷 TANIBATA Go

専門 人文地理学

「地形からみた身近な地域」

「所変われば品変わる」と言いますが、場所による特色の違いを生み出しているのが「地理的条件」です。「地理的条件」に注目することによって、場所に関する様々な事象や謎を解き明かすことができます。この講義では「地理的条件」の1つである「地形」にとくに着目して、地域の特色、たとえば町の成り立ち、文化、観光資源、災害リスクなどについて考えてみたいと思います。

「Web地図を使って主題図を作成してみよう」

地図は地理学の見方・考え方を支える重要なツールです。その地図は、すでに作られたものを見る機会が圧倒的に多いと思いますが、「地図を作る」というプロセスを経験することで、地図に対する理解がより深まります。そこで、具体的な地理的事象(たとえば小売業の立地、外国人の分布など)を事例に、実際にWeb地図を使って主題図(地図)を作成しながら考えてみたいと思います。(※講義実施に際し、PCやタブレットを活用できる環境が望ましいです。)

GIS分野

複数の教員 (人文学部：谷端郷／経済学部：浅妻裕・大貝健二・鈴木雄大・水野谷武志)

「北海学園大学のGISカリキュラム」

北海学園大学では、地理空間情報(GIS)に関する講義を複数展開しています。GISは、空間に関わる全ての分野の研究で利用できるものです。1年次から学ぶことができ、4年次の卒業論文等ではGISを用いた本格的な研究も可能です。このカリキュラムの流れと、GISを用いるとどのようなことが出来るようになるのか、ということをお話します。

注意：受講者人数に応じて、複数名の教員が講義・サポートにあたる場合があります。派遣教員は大学側で調整します。

「GISとは何か —ArcGIS Onlineの魅力—」

本学のGIS教育では、どこからでも利用できるwebアプリケーション、ArcGIS Online (AGOL) を用いています。GISとは何か、社会の中でどのように用いられているのかをお話した上で、受講者に、観光・文化・歴史・人口分布などを題材として、AGOLを操作していただき、地図作製などを行います。GISの世界への扉を開いてみませんか。

注意1：受講者人数に応じて、複数名の教員が講義・サポートにあたります。派遣教員は大学側で調整します。

注意2：受講生は、1人1台のパソコンとインターネット環境が必要。

語学分野

経営学部 教授 マツネ・マーク MATSUNE Mark

専門 英語教育 (CALL Methodology)

「Communication Strategies Model Lesson (Oral Communication)」

This demonstration lesson will offer students the opportunity for direct practice in all 4 English language skills for the purpose of communication. Students will be required to take an active role in the lesson. The topics will include: personal introductions, likes & dislikes and a brief introduction of the instructor's native country, Canada, and students introducing their country, Japan. This INTERACTIVE session will be enjoyable and challenging!!!

「オーラルコミュニケーション体験授業」

この授業では、自己紹介や講師の出身であるカナダをテーマに、英語でのコミュニケーションを楽しく学びます。コミュニケーションを重視した授業のため、定員は30名とします。

語学分野

人文学部 教授 徳永 良次 TOKUNAGA Yoshitsugu

専門 日本語史

「文字の歴史」

日本語の文字は、中国から輸入した漢字、それを改良したひらがなとカタカナの3種類の文字を自由自在に組み合わせて使用しています。このような複雑な文字体系を持つ国はあまりありません。今では、直接文字を書くことは少ないのですが、逆にメールなどで文字に触れる機会がむしろ増えてきています。文字に関する歴史を改めて見つめ直してみる機会に出来ればと考えています。

語学分野

工学部 教授 平田 洋子 HIRATA Yoko

専門 英語教育

「Webを英語学習に役立てる」

Webを英語の上達にもっと活かしてみませんか。Onlineリソースを利用したさまざまな英語学習法を紹介しながら実習形式で授業を行います。コンピュータの基本操作やソフトウェア等の利用法が身に付いている高校生の方が対象となります。(各自でOnline教材の音声を確認ことができ、映像が見られる環境が必要です。)

語学分野

経営学部 教授 浦野 研 URANO Ken

専門 英語教育・第二言語習得

「英語を勉強して、そのあとどうする?」～英語を「使う」ということ～

みなさんはなぜ英語を勉強しますか? 必修科目だから? それとも大学受験に必要なだから? 高校卒業後も英語の勉強を続けますか? 何のために? この講義では、みなさんが英語を勉強する目的を一緒に考えることから始め、将来必要となる英語力やスキルについて検討します。特に「仕事で使う英語」に焦点をあて、役に立つ英語力をつけるための勉強法について一緒に考えます。

語学分野

経済学部 准教授 一條 由紀 ICHIJO Yuki

専門 フランス語・フランス語圏文学

「フランス語を話そう」

この講義では、フランス語の初歩を学び、挨拶や簡単な自己紹介程度の会話ができるようになることを目標にします。フランス語というとフランスでしか使えないと思っている人もいますが、フランス語が話されている国・地域は、ヨーロッパ、北米、カリブ海地域、アフリカ、太平洋の島々など広い範囲に存在します。言語を通して文化や社会を学びましょう。

語学分野

人文学部 教授 田中 洋也 TANAKA Hiroya

専門 第二言語習得(英語教育)

「TVドラマ・映画に学ぶ英語口語表現」

「字幕なしに英語のドラマや映画を楽しめるようになりたい!」そんなことを思う人も少なくないでしょう。ドラマや映画で用いられる英語は、教科書で用いられる英語とちょっと違う側面もあります。この講座では、ドラマや映画の場面を通して会話の鍵となる口語表現を学び、英語表現力の幅を広げることを目指します。

「アニメで学ぶ留学の英会話」

コミュニケーションでは、相手や状況に合わせて適切な表現を用いることが重要です。この講座では、独自に作成した1本5分程度のアニメーション教材を用いて、留学の場面で遭遇する様々な表現を体験的に学びます。将来の留学の準備としてはもちろん、日常会話のコミュニケーションでよく用いられる表現を学ぶ機会となる講座です。

語学分野

人文学部 准教授 丸島 歩 MARUSHIMA Ayumi

専門 音声学・日本語教育

「日本語のできる国際交流 ―やさしい日本語―をはじめよう」

外国の人と話すとき、英語でなければいけないと思いませんか? 実は日本に住んでいる外国人は、英語ができる人よりも日本語が少しできる人のほうが多いのです。ただし、外国の人と日本語でスムーズにコミュニケーションをとるためにはちょっとしたコツがいります。実際に起こりそうな状況を例に、そのコツを一緒に考えてみましょう。

「創作のことが作るイメージ」

「○○だけ」は男のことが、「○○だわ」は女性のことがばだと考えられています。しかし実際に私たちは日常的にそのようなことがば遣いをしているのでしょうか。このような話し方は、現実よりも小説やマンガ、アニメやドラマなどの創作に多く見られるのではないのでしょうか。フィクションのことがばが私たちのことがばのイメージに与える影響についてお話します。

語学分野

工学部 教授 熊坂 亮 KUMASAKA Ryo

専門 ドイツ語学

「多言語国家スイスの言語状況について」

多言語国家として知られるスイスでは、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4つの言語が「国語」として使用されています。この講義では、これらの4つの言語がどのようにスイスという1つの国家の中で共存しているのかということを見ていきます。また、スイスではドイツ語が「ある特殊な状況」に置かれているという点にも言及したいと思います。

「『英語以外の外国語』にふれてみよう」～ドイツ語会話入門～

高校までで習う外国語といえばたいていは英語ですが、大学では英語以外にも様々な外国語を学習することができます。この講義では、ドイツ語の初歩的な会話表現の練習を通じて、英語以外の外国語にふれる機会を提供したいと思います。日本語や英語にない発音に親しみながら、「あいさつ程度」のドイツ語を身につけてみましょう。

語学分野

人文学部 教授 ジェレミ・ブシャー Jeremie BOUCHARD

専門 異文化コミュニケーション

“What is important in communication”

日本語を母語とする私たちが、英語を使ってコミュニケーションをする際に必要なことは何でしょうか? コミュニケーションとは、言語だけでなく、非言語コミュニケーションも大切となります。何故なら、単語や文法を習得する以外に、様々な文化を理解し、自身のアイデンティティを広げていくプロセスが重要となります。フランス語、英語、日本語を話すブシャー先生が行う大学のレクチャーを体験してみませんか?

語学分野

法学部 准教授 佐藤 ケイト Kate SATO

専門 異文化コミュニケーション

【英語を話す3つの秘訣を学びましょう】

①イギリスからの先生による楽しく身に付く参加型授業。②誰でも簡単に英語を話す3つの秘訣を学ぶ。③この授業を通して実用的な英語を話す自信をつける。

語学分野

人文学部 講師 清沢 紫織 KIYOSAWA Shiori

専門 スラヴ語学(東スラヴ語)、社会言語学(言語政策)

【キリル文字から始めるロシア語】

ロシア語を書き表すのに用いられるキリル文字は、東欧におけるキリスト教の普及と共に10世紀に誕生した歴史を持ちます。キリル文字を学ぶことはロシア語やロシアの歴史について知る第一歩です。ローマ字やギリシャ文字に似たユニークな形の文字の誕生秘話について知り、文字を実際に一緒に学んで自分の名前をキリル文字で書いたりロシアの地名を読んだりしてみましょう。

【ウクライナ語から知るウクライナ】

近年ニュース等で注目を集めるようになったウクライナですが、その言語や文化について知る機会はまだ多くありません。ウクライナの公用語であるウクライナ語は人々のアイデンティティや日常生活とどのような関係にあるのかについて知り、実際にウクライナ語の会話表現などに触れ体験的にウクライナへの理解を深めましょう。

【ベラルーシから考えるロシア語圏のことばと社会】

ロシア語はロシアだけでなく、かつてソ連を構成していた国々でも広く使用されています。ベラルーシはそうしたロシア語圏の代表的な国です。国内では地域に根差したベラルーシ語という言葉も使われますが、国民の7割以上がロシア語を生活言語としています。不均衡な2言語社会であるベラルーシを例にロシア語圏のことばと社会について考えます。

語学分野

人文学部 教授 岩田 哲 IWATA Akira

専門 応用言語学(英語教育学)

【歌で学ぶ英語らしい発音:個別の発音と音のつながりを中心に】

English as a Lingua Franca (共通語としての英語) や World Englishes (世界の英語) という言葉に代表されるように、自分達の英語を自信を持って使おうという考えが主流になってきています。しかし、極端な日本独自ルールの発音や文法で、意思疎通が図れなくなってしまうたら?本講義では洋楽を歌いながら、「発音」や「リズム」の違いを中心に英語らしい「音」の体得を目指します。(※教室全体に聞こえるスピーカーが必要になります。)

語学分野

人文学部 講師 南 明世 MINAMI Akiyo

専門 日本語学・日本語教育学

【日本語には主語がない?】

「この仕事は田中さんが担当します」の文の主語は何なのか。日本語には英語のような「主語」とは異なる「主題」という概念がある。本講義では、「は」と「が」の違いを取りあげ、文を構成する主題について詳しく見ていく。普段何気なく使用している日本語文法の特徴と奥深さを専門的な視点から分析する。



社会環境工学分野

工学部 教授 小幡 卓司 OBATA Takashi

専門 橋梁工学・鋼構造学・構造力学・維持管理工学

【橋の話】

橋は、遙かな昔から人間の生活を支える重要な社会資本の一つである。古代の橋から、現在の橋梁技術の変遷を、分かりやすく解説する。また、今後の社会の持続的発展に資するための維持管理技術、測定技術、防災の観点から見た耐震・制震・免震技術に加え、地球温暖化と鋼材の3Rにも触れ、今後の橋梁のあり方に関しても説明を加えるものである。

社会環境工学分野

工学部 教授 高橋 良輔 TAKAHASHI Ryosuke

専門 社会環境工学

【はじめての鉄筋コンクリート工学】

橋梁などの土木構造物は、現代の我々の社会生活には欠かせないものです。鉄筋コンクリートは、その土木構造物に大変多く用いられる構造の一つです。コンクリートとは何か?なぜ固まるのか?なぜコンクリートだけではなく鉄筋を用いるのか?安心安全にいつまで使うことができるのか?などについて、講義と簡単な実験を通して学びます。

社会環境工学分野

工学部 教授 鈴木 洋之 SUZUKI Hiroyuki

専門 水理学・水文学

【河川管理】

河川は我々に飲み水や各種用水といった水資源を供給するなどの利益をもたらすと共に、毎年のように水害によって生活を脅かす負の側面を持つ。人間は水利用(利水)と防災(治水)といった河川管理技術を駆使してこの河川と付き合いながら生活してきた。ここでは社会環境工学を学んだ技術者が扱う分野の一つである河川管理について概説する。

社会環境工学分野

工学部 教授 山田 俊郎 YAMADA Toshiro

専門 環境衛生工学・水環境工学

【私たちのくらしと安心・安全な水】

今の日本では、ほぼどこでも蛇口をひねると飲むことができる水を得ることができますが、一昔前は飲み水や生活で使う水を得るためには大変な苦勞をしていました。安全で安心な水を得る方法や、日本やアジア諸国の飲み水事情も学びながら、私たちのくらしと水の関係について一緒に考えてみましょう。

【水質汚濁問題と水環境をまもるしくみ】

日常生活や社会活動から出る排水は、川や海にたどり着くまでにどのように処理されているのでしょうか?また排水処理だけで水環境はまもれるのでしょうか?日本やアジアでの河川や湖沼における過去や現在の水質汚濁問題とその原因を知り、問題解決の方法や水環境をまもるしくみについて一緒に考えてみましょう。

社会環境工学分野

工学部 教授 安藤 直哉 ANDO Naoya

専門 水道工学・環境工学

【限りある資源「水」を考える】

ヒトの生活と切っても切り離せない水。ヒトの生活は水に支えられているとも言えます。この講義では、ヒトは水をどのようにして得ているのか? また、使用した水をどのように自然に戻しているのか? について、水循環をキーワードにして紹介します。講義を通して、今後の「ヒト」と「水」とのかかわり方について一緒に考えてみましょう。

社会環境工学分野

工学部 准教授 金澤 健 KANAZAWA Takeru

専門 構造力学

【なぜ三角形は強いのか: 橋が力を支える仕組みとペーパートラス橋の実験】

普段何気なく上を通過している橋が、どのように力を支えているのか想像してみたことはあるでしょうか。この講義では、「壊れない橋を作る」ために必要な考え方を紹介します。ケント紙で作成した橋の模型を使った実験を行い、「三角形は強い」ということを直観的に理解できるよう解説します。

【恋愛微分方程式から学ぶ力学の世界】

微分方程式を解く目的のひとつは、未来を予測することです。一組の男女について、その性格を簡単に仮定すれば、恋愛の行く末を予測することだって可能です。この恋愛微分方程式を切り口として、力学の世界を見てみましょう。恋愛も力学も、同じ微分方程式で理解することができます。

【社会環境工学とは何か?】

担当教員: 本学で決めさせていただきます。

【環境情報工学とは何か?】

担当教員: 本学で決めさせていただきます。



建築学分野

工学部 教授 米田 浩志 YONETA Hiroshi

専門 建築デザイン

【建築空間と光について】

建築の内部に光が注ぎ込まれた時から空間は生き始めます。我々の心理に多く語りかけてくるのは、光を受け止めた建築空間です。その光には、様々な性格があり、特に時間や季節そして風土によって大きく変化します。空間が光を受け止めるとき、建築はどのように変わっていくのでしょうか。古代建築から現代建築まで、光を受け止めた建築作品を年代順に紹介します。

【現代美術館の魅力について】

建築の中でも現代美術館は、最も創造的な形態や空間を生み出しやすい存在です。それは、美術館が収用する作品とそれを受け入れる建築が創造性という点で共通性を持ち、お互いが刺激し合う関係にあるからです。最近、日本の中でも各地に、今を創り出す新しい美術館建築が建ち始めて来ました。その幾つかを取り上げ、それぞれのデザイン的な特徴を解説します。

【北海道住宅の開放性について】

住空間は生活者の拠り所になります。この拠り所は、冬景色が広がる北海道において特に重要な意味を持ってきます。それは、冬の体験が蓄積される中、住空間に心理的な安定感を求めざるを得ないからです。そのような状況の中、住空間はどのように変わっていくのでしょうか。拡がりテーマに、私が設計した住宅作品を中心にしながら、具体的な住空間を紹介します。

建築学分野

工学部 教授 岡本 浩一 OKAMOTO Koichi

専門 都市・住環境計画

【まちを観察してみよう】

私たちが暮らすまちには、デザイン的な心遣いや気配りが様々になされています。それらは日常の風景に溶け込んでいるので、気をつけて見ていないと気づくこともありません。簡単に気づかれてしまっては、本末転倒ともいえます。幾つかの事例とその背景や仕組みなどをご紹介します。まちの観察が楽しくなるかもしれません。

【建築学科学生による空き家再生】

高齢・人口減少社会を迎え、空き家の増加は地域にとって大きな課題と考えられています。2030年代には10件のうち3件が空き家になるという衝撃的な予測もあります。一方、空き家には地域の魅力を高める可能性が秘められているかもしれません。建築を学ぶ学生が若い力と豊かな発想で空き家再生に取り組んだ様子をご紹介します。

【まちづくり発祥の地 北海道】

現在、「まちづくり」という言葉は、あちらこちらで耳にします。ところで、「まちづくり」は、いつ頃どこから始まったのでしょうか？ 意外に思われるかもしれませんが、私たちの暮らす北海道は「まちづくり発祥の地」と言っても過言ではありません。その理由を具体的な事例をもとにお話します。

建築学分野

工学部 教授 石橋 達勇 ISHIBASHI Tatsuo

専門 建築計画

【少子高齢・人口減少社会において公共建築物の建築計画にもとめられること】

我が国では少子高齢化が急速に進展し、2050年には人口が1億人を下回ることが予測されています。このような社会情勢・構造の変化の中で、我々の暮らしの中で利用される公共建築物の計画や設計の考え方が変わりつつあります。特に医療や福祉に関係する建築物を中心として、建築計画の視点から現状や今後の課題などについてお話します。

建築学分野

工学部 教授 足立 裕介 ADACHI Yusuke

専門 建築材料

【建築物の劣化診断と補修について】

皆さんに安全・快適な生活環境を提供している建築物は年を経るにつれて日射や風雨、空気や海水、雪などの影響によって徐々に劣化していきます。それらを放置すると劣化は拡大していき、やがて大きな事故などにつながる可能性を秘めています。これらを未然に防止するために、建築物がどのように点検・診断され、補修されていくのかについてお話します。

建築学分野

工学部 教授 小柳 秀光 KOYANAGI Hidemitsu

専門 建築環境・設備、都市環境・設備

【人が生き活きとする環境にやさしい建物とまちづくり】

我々が建物やまちをつくる際、気候変動やエネルギーなど、まわりの環境に配慮する必要があります。本講義では、環境にやさしい建物やまちのつくりかたを解説します。

建築学分野

工学部 准教授 清水 信宏 SHIMIZU Nobuhiro

専門 建築都市史

【建築・都市とフィールドワーク】

実際に存在する建築や都市に行くこと、そこで何かを調べた上で文献なども見ていくと、その地域の成り立ちを知る上で大事なことが見えてくる場合があります。いくつかの世界の事例を用いながら、私がこれまで研究対象としてきたエチオピア北部の話を中心に、建築や都市の歴史が語りかけてくれることをお話ししたいと思います。

建築学分野

工学部 教授 三澤 温 MISAWA Yutaka

専門 建築外装工学

「環境建築と“かたち”」

世の中にはいろいろなカタチの魅力的な建物があります。そのなかには、さまざまな視点から検討を重ね環境に配慮した建築があります。世界や日本の環境建築の事例をみながら、それらの建物で、どのような環境配慮がなされ、それが建築として、どのような“かたち”で実現しているか、建築的アプローチに触れながら紹介していきます。

「ガラスと建築」

ガラスは建物に自然光や日射を採り入れたり、眺めを確保したりと透明でありながらも様々な機能をもっています。また建物の外観の美しさや、透明さから魅力的なガラス建築がデザインされています。この講義では、さまざまなガラス建築が持つ魅力について、事例を交えながら紹介するとともに、建築用ガラスの生産方法や種類、機能を学んでいきます。

「建築学とは何か?」

担当教員：本学で決めさせていただきます。

情報工学分野

工学部 教授 菊地 慶仁 KIKUCHI Yoshihito

専門 生産工学

「サイエンティフィックビジュアライゼーションの入り口」

すでに映画やアニメーション等でCG技術は用いられていますが、設計や生産、そして日常の運転等でも用いられています。本講では、計算結果の表示の段階からCG技術が「何を」表現しているかを学び、さらに将来の可能性に触れたいと考えています。

「コード化そして冗長化の役割 ～コード化理論の基本」

クレジットカードの入力間違いの検知を題材に、コンパクトディスクや衛星画像通信などでの情報表現と誤り訂正について学ぶ。

「PCでドローンを制御するには」

動画やCMなどで4ロータードローンは簡単に航空撮影ができる機材として普及してきました。ドローンはスマートフォンで制御するのが一般的ですが、プログラムで制御したいというニーズから研究目的でPCから制御する方式もあります。今回は、ドローンの基本的なメカニズムや、制御方法、またどのような応用が可能かご紹介しようと思います。

情報工学分野

工学部 教授 喜田 拓也 KIDA Takuya

専門 アルゴリズム、データ圧縮

「情報の量をはかる意外な方法」

重さや面積と同じように「情報」にも量を定義することができます。情報の量を取り扱うための理論が情報理論です。電話で友達とおしゃべりしたり、ゲームのデータをダウンロードしたり、スマホでメッセージを送ったりするとき、情報は情報理論にしたがって0と1を並べた列へと変換されています。この講義では、情報理論のなかめの一つである情報源符号化定理について紹介します。

「生命科学とアルゴリズム」

世の中の様々な物事にアルゴリズムが活用されています。この講義では、アルゴリズムとはなにか、なぜアルゴリズムが必要なのか、アルゴリズムを考えるということなのか、といった疑問に答えます。また、生命科学分野、特に生物の遺伝子情報をつかさどるDNAの解析におけるアルゴリズムの応用例についてお話します。

情報工学分野

工学部 教授 内田 ゆず UCHIDA Yuzu

専門 自然言語処理

「オノマトペはやさしくてむずかしい」

オノマトペとは、擬音語や擬態語をまとめたものです。日本語にはオノマトペが特に多く存在しており、わたしたちの生活には欠かせない表現です。この講義では、オノマトペの特徴を解説した後、オノマトペをコンピュータで処理し、人々の生活に役立てようとする試みを紹介します。理系の学問と文系の学問が融合する面白さも感じてもらいたいと考えています。

「人工知能は人の言葉を理解しているのか?」

人工知能(AI)の技術が私たちの生活を大きく変えようとしています。豊かな生活への期待が高まる一方、「AIが進化し続けると人間の手を離れて暴走するのでは」と心配する人もいます。実際のところ、人工知能はどのくらい「すごい」のでしょうか? この講義では、現在の人工知能技術、特に言葉を扱う技術を整理して、AIが得意なこと/苦手なことをお話します。

情報工学分野

工学部 准教授 佐藤 晴彦 SATO Haruhiko

専門 ソフトウェア工学

「論理的に考えるコンピュータ」

コンピュータに人間のような知的な処理を行わせるための基礎として、「論理的な思考」を機械的に実現する技術(自動推論)の研究が進められており、数学的な定理の自動的な証明や、情報システムに欠陥が無いことの検証などに応用されています。この講義では「論理とは何か」という基本的な概念から、自動推論の基本的な仕組みと最近の応用例についてお話します。



電子工学分野

工学部 教授 佐々木 裕司 SASAKI Yuji

専門 光工学

【液晶の科学】

物質は一般的に固体・液体・気体のいずれかの状態をとりますが、場合によっては固体と液体の間に「液晶」と呼ばれる状態が現れます。液晶ディスプレイに代表されるように、液晶状態を示す物質は電氣的に光の振る舞いを操作することができます。この講義では、身の周りにある液晶について紹介し、表示デバイスにどのように使われているのかについて解説します。

電子工学・情報工学分野

工学部 教授 元木 邦俊 MOTOKI Kunitoshi

専門 音声情報処理

【声が出る仕組み】

音声は私たちの最も基本的なコミュニケーションの手段です。普段、何気なく声を出していますが、「あ」「い」「う」「え」「お」などの音韻の違い、男と女の声の違いなど音声の生成機構に基づいて解説します。

電子工学・情報工学分野

工学部 教授 高氏 秀則 TAKAUJI Hidenori

専門 知能ロボティクス・画像計測

【ロボットビジョンのしくみ】

最近のロボットの多くは、周りの環境を認識するセンサとしてカメラを搭載しています。本講では、人間の目と脳の機能をカメラとコンピュータで代用したロボットの視覚センサ(ロボットビジョン)のしくみについて学びます。また、人間の視覚に関する不思議な現象を通して、人間の視覚とロボットビジョンの違いや共通点について解説します。

電子工学・情報工学分野

工学部 教授 笹森 崇行 SASAMORI Takayuki

専門 アンテナ・伝搬

【電波はどのように利用されているか】

テレビやラジオのような放送から衛星通信、スマートフォン、無線LANのような通信、各種レーダーやカーナビゲーション、電子レンジ、電磁調理器など、いろいろな目的に電波が使われており、電波のおかげで私達の生活がとても便利になっています。この講義では、無線通信や携帯電話の歴史も交えて、電波のいろいろな使い方を紹介します。

電子工学・情報工学分野

工学部 教授 藤原 英樹 FUJIWARA Hideki

専門 応用光学

【光の不思議】

光を普段意識することはほとんどありませんが、光がなければ何も見えないうちに多大な恩恵を受けています。この光は、運動量を基準とした波の性質と、エネルギーを基準とした粒の性質の2つを併せ持つ不思議な振る舞いを見せ、粒と波の性質を上手く使うことで世の中の光デバイスは動作しています。この講義では、光の不思議な性質がどのように利用され、現代社会で役に立っているかを紹介します。

【電子情報工学とは何か?】

担当教員：本学で決めさせていただきます。

天文学分野

工学部 教授 但木 謙一 TADAKI Kenichi

専門 観測天文学

【巨大望遠鏡で観る100億光年彼方の銀河】

遠くの銀河を観測すればするほど、それは過去の宇宙の銀河の姿を観ていることになります。宇宙は138億年前のビッグバンによって誕生しましたが、現在の巨大望遠鏡は130億年前の宇宙にある銀河も発見できるすごい能力を持っています。この講義では宇宙初期にある銀河の最新の研究成果について紹介します。

【ブラックホールは本当に存在するのか?】

一度入ったら逃げられない、なんでも吸い込むブラックホール。ブラックホールからは光すらも逃げ出すことができないので、望遠鏡では直接観ることができません。では天文学者はどのようにしてブラックホールが存在することを知ったのでしょうか?この講義では皆さんも映画やマンガで見たことがある不思議なブラックホールの最新の研究成果について紹介します。

【第2の地球は存在するのか?】

地球温暖化が進み、異常気象が頻繁に起こり、作物を育てることができなくなった数百年後の地球。人類はそんな地球を捨てて、遙か彼方の別の惑星に移住しようとするかもしれません。しかしこの宇宙に移住できるような地球に似た惑星は他に存在するのでしょうか?この講義では巨大望遠鏡による太陽系外惑星の最新の研究成果について紹介します。

理学・環境分野

工学部 教授 前田 秀基 MAEDA Hideki

専門 物理学

「物理学の技法～系の理想化・思考実験・物理量の次元と単位～」

ピサの斜塔でのガリレオによる「異なる重さの物体を落とすと同時に地面に到達する」という実験結果は鳥の羽と鉄球だと成り立ちませんが、なぜ正しいと言えるのでしょうか?また「 $10+1=11$ 」で正しいのに「 10g と 1m を足すと 1kg になる」が意味不明なのはなぜでしょう?この講義ではこのような問いに関する物理学の独特な手法や考え方について解説します。

「地球と原子を測る～持てないものの大きさと重さを知る方法～」

地球や原子の大きさや重さを知りたくても物差しを当てたり体重計に乗せることはできません。では人類はいったいどのような方法で大きさと重さを測ったのでしょうか?この講義では「巨大なものや微小なものの物理量を知る方法」を解説します。

「物理で微分と積分を使う～力学を例にして～」

高校の物理ではたくさんの公式が登場しますが、実は物理学は「ごく少数の基本法則・原理からすべての現象を説明する」という非常に強力かつエレガントな分野で、基本法則・原理以外の公式はすべて導出可能です。この講義では力学の内容で微分と積分を使い、その事実を体験します。
条件:受講生が2次関数の微分と不定積分を知っていること

「タイムマシンの作り方」

みなさんも一度は「未来に行って人類の進歩を見たい」とか「過去に行って自分の失敗を食い止めたい」と思ったことがあるのではないのでしょうか。タイムマシンはその願いをかなえてくれる究極のテクノロジーですが、単なるファンタジーではなく物理学の興味深い研究対象です。この講義ではどのようにすればタイムマシンが実現できるのかを解説します。

「原子の世界への入口～見なくても物質の構造がなぜわかるのか～」

高校の物理では物質は原子からできており、さらに「原子は電子と原子核からできている」と習います。そのうえで化学では水素や酸素は単独の原子ではなく、原子2つのペアである分子として存在すると習います。こんなことを見もしないでどうやって突き止めたのでしょうか?この講義では目に見えない物質の構造がどうやって理解できるのかを解説します。

理学・環境分野

工学部 教授 森越 文明 MORIKOSHI Fumiaki

専門 理論物理学

「ミクロの世界の物理学と複素数」

物理学とは自然界の本質を理解しようとする学問であり、その法則は数学で記述される。原子などのミクロの世界は量子論という理論に従っており、我々の直観に反する振舞いをするうえに、その記述には日常的に使う実数ではなく複素数を必要とする。この講義では、ミクロの世界の物理学と複素数の不思議なつながりについて紹介する。

環境生物学分野

工学部 教授 早矢仕 有子 HAYASHI Yuko

専門 保全鳥類学

「絶滅危惧種シマフクロウを守る」

シマフクロウは、日本では北海道だけに住んでいる世界最大級のフクロウです。森林と河川環境悪化により数が減り、絶滅の危機に陥りましたが、40年に及ぶ国の保護事業により、ようやく100つがいを上回るまでに回復しました。講義では、シマフクロウの生態と保護についてお話しし、高校生のみなさんも学びを通して保護活動に参加できる取り組みも紹介します。

生命科学分野

工学部 教授 鈴木 聡士 SUZUKI Soushi

専門 人間・環境システム

「脳波からなにがわかるか?」

本講義では、①人間のアルコール分解能力は、DNAの違いにより3タイプ(強い、弱い、飲めない)に分類できる。これらの能力別に飲酒時のリラックス効果を脳波により分析し、各タイプで最もリラックスが得られる飲酒量を明らかにする。②自動車の長距離運転時において、エナジードリンクを飲用した場合の眠気緩和効果を脳波により分析する。

生命科学分野

工学部 教授 久保 勘二 KUBO Kanji

専門 構造有機化学・材料有機化学

「香りの科学」

私たちのまわりには、花や樹木の香り、体臭、生活の中で感じるトイレや生ごみの臭いなど様々な「かおり」や「におい」があります。また、香料は、香水、食品、化粧品やハウスホールド製品など様々な用途に使われています。本講義では、かおりとにおいの違い、嗅覚の仕組み、自然界のかおり、体臭、香料、アロマセラピー、精油などについて解説します。



生命科学分野

工学部 教授 高橋 考太 TAKAHASHI Kohta

専門 分子遺伝学・染色体工学

「生命科学の光と影」

「生命を操作する技術」バイオテクノロジーについて、長寿の遺伝子やテラーメード医療などの最先端トピックを紹介し、「人類の幸福」に貢献するその未来像を考えていきます。一方で、その想定を超える技術的進展は、「自然の摂理」を軽々と冒し、深刻な生命倫理上の問題を我々に突き付けています。「未来世代への責任」をキーワードに、生命科学の光と影を考察します。

「ミュータントが教えてくれること」～分子遺伝学入門～

分子遺伝学は、「ミュータント」とよばれる遺伝子に変異を持つ個体の特徴を調べることで、その遺伝子の機能を探る学問です。その発展により、「遺伝病」とよばれる遺伝子変異に起因する病気の発症のしくみも、次々と解明されつつあります。いくつかの遺伝病の具体例を示し、「ヒトがいかに遺伝子により支配されているか」や「ヒトの多様性の起源」について考察します。

「生命の尊厳とバイオテクノロジー」～生命倫理学入門～

バイオテクノロジーや医療技術の進展により、人為的介入によって初期胚を操作したり、脳死患者から臓器を摘出することが可能になりました。さらにデザイナーベビーやブレインコントロールなど、これまで想定できなかった様々な生命倫理上の問題を引き起こしつつあります。ヒトはどの段階でヒトになりヒトでなくなるのか、「生命の尊厳」をキーワードに考えます。

生命科学分野

工学部 教授 水谷 武臣 MIZUTANI Takeomi

専門 細胞生物学

「iPS細胞研究の最前線」

iPS細胞樹立の成果発表から約10年の月日が経ちました。一足先に構築されたES細胞とiPS細胞は、心臓や神経などの自己修復しない細胞へと変化する能力を有するために、医療応用が注目されています。本講義では、iPSとES細胞による研究を紹介します。また、蛍光顕微鏡と細胞を持ち込んだデモ実験も予定しています。本講義を通じて、研究の世界と一緒に覗いてみましょう。

生命科学分野

工学部 教授 友池 史明 TOMOIKE Fumiaki

専門 タンパク質科学・核酸化学

「タンパク質の力で環境問題を解決する」

未だ人類の科学では不可能なことも、生物は可能にしていることもある。これは生物の中で動くタンパク質が高度な機能を持っているためである。そこでタンパク質を利用することで環境問題、具体的には廃棄物問題やエネルギー問題が解決できる可能性がある。この講義では、タンパク質の機能とともに、タンパク質を利用した最新の事例を紹介する。

「生命で重要な役割を果たす核酸の応用」

核酸は細胞内で遺伝情報の保持や利用で重要な役割を果たしている。近年、この核酸を医薬品に利用する核酸医薬に注目が集まっている。また、化学的な手法により高機能な人工核酸も開発されており、医薬品や生命科学の研究ツールとしての応用は、さらに広がっている。本講義では核酸の細胞内機能を紹介するとともに、核酸の最新の応用例を紹介する。

「生命工学とは何か?」

担当教員：本学で決めさせていただきます。

数学分野

工学部 准教授 船川 大樹 FUNAKAWA Daiju

専門 数学

「量子コンピュータの裏にある数学」

量子コンピュータとは演算スピードが既存のコンピュータよりも非常に速い「量子探索アルゴリズム」を用いた計算機である。この量子探索アルゴリズムは数学の「量子ウォーク」と呼ばれる数理モデルによって記述される。本講義ではこの量子ウォークと簡単な量子探索アルゴリズムを紹介し、最先端の数学の世界に触れていく。

統計・数学分野

工学部 教授 山本 隆範 YAMAMOTO Takanori

専門 統計学・数学・数学史

「正五角形と正十七角形の作図について」

本研究のテーマは数百年前にガウスにより解決されました。そのときガウスはまだ成人(20歳)していませんでした。このテーマは角度の言葉で書くと、割り算 $360^\circ \div 17$ の答えをAとおくとき内角の2つが 90° とAであるような直角三角形を作図することと同値です。今回の作図に使用できる道具は目盛の書いていない直線定規とコンパスです。ガウスは語学が得意でした。天文台長でした。また正規分布を考えました。それはガウス分布とも呼ばれます。

体育学分野

経営学部 教授 伊熊 克己 IKUMA Katsumi

専門 体育学

「ライフスタイルと健康の関係」～あなたの生活は大丈夫?～

生活習慣病などという言葉を目にしますと、中高年を中心とした病気と思われがちですが、実は近年これが若年世代にも発見されて、むしろ増加傾向を示している現状なのです。この講義では、自分の健康を維持向上していくために必要な健康を支える三大要素である栄養・休養・運動等についての解説をし、その中でも運動・スポーツ活動の必要性とその取り組みについてのお話しをしたいと思います。

「ライフステージの健康・スポーツ活動を考える」

本講義は、我々人間のライフステージにおける様々な健康問題の事例を紹介しながら、それぞれのライフステージに該当する者が良好なライフスタイルを構築していくためにはどうすべきなのか、また、健康を確保するための行動変容をいかに実践していくか等の基礎知識についてお話しします。また、あわせて生活習慣と健康の関係について、理解してほしいと思います。

体育学分野

経営学部 准教授 吉田 充 YOSHIDA Makoto

専門 体育学

「目のつけどころで勝利しよう」

スポーツ中、熟練者は、いつ、どこを、どのように見ているのか? また、どのように目を動かし、視野を確保し、視点(自分・相手・第三者視点)をとっているのか? について解説します。車の安全運転をする為にも、スポーツ競技力向上にも役立つ、勝利する為の目のつけどころについて一緒に考えていきましょう。

体育学分野

経営学部 教授 田中 昭憲 TANAKA Akinori

専門 体育学

「スポーツに必要な基礎的動作の能力アップ法」

異なる競技スポーツでも、その中の動きをよく見ると、いくつかの共通な動作、例えばダッシュやジャンプなどの組み合わせで構成されていることがわかります。この講義では、いくつかのスポーツ種目に共通にみられる基礎的動作を伸ばす方法について、科学的に解説します。そのスポーツに必要な基礎的な動作の能力が向上すれば、その競技力も格段にアップすることでしょう。

「実技 運動部のトレーニング」～ストレッチングを使い分ける～

スタティックストレッチング、ダイナミックストレッチングをそれぞれ筋の特性を利用して、目的別に使い分け、ウォームアップやクールダウン、疲労回復などに役立てる。運動部員のパフォーマンスアップの実技研修に最適です。

体育学分野

法学部 准教授 内藤 貴司 NAITO Takashi

専門 体育学

「競技スポーツにおけるスポーツ科学と測定値」

近年スポーツ科学分野の発展により、競技スポーツのパフォーマンスは非常に向上しています。スポーツ科学分野では特に測定機器の進歩が目覚ましく、今まで測定できなかったものが測定できるようになってきました。本講義ではスポーツ科学分野における測定データを活用し、自身の競技スポーツに繋げられるように解説します。



受講された生徒の皆さんの声

身近にあるSNSを通して、
難しい印象にあった刑法を
わかりやすく
解説してもらえた

経営学について、
身近なものを題材にしていて
理解しやすかった

英語を勉強する意味や
方法を学ぶことができ、
今後の英語の授業への
モチベーションが上がった

昔と現代のビジネスの
やり方を見比べ、
時代を超えた
結びつきが感じられて
おもしろかった

大学の授業はもっと堅い
イメージだったけど、
わかりやすくてよかった

政治・経済は自分に
身近なものにつながって
いることが知れて
おもしろかった

メディア等、
表現の自由といった
自分にも直接的にかかわる
可能性のある内容であるため、
他人事と思えず
しっかり学べた

親しみやすい歌から
英語の発音が
学べて楽しかった

「なぜ声が出るのか」
ということ
今まで考えたことはなかったが、
想像以上に複雑な仕組みで
おもしろかった

有名な企業の
企業戦略を知ることができて
おもしろかった

フェアトレードについて、
現状や日本にも足りていない
部分があることを知れて
勉強になった

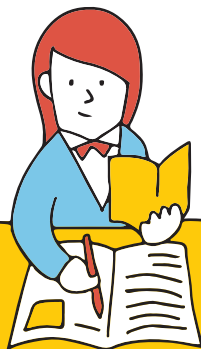
将来の進路について
今よりもよく考える
きっかけとなった

法に基づき、
実際に事件の判決を
考える機会はとても貴重で
おもしろかった

法律の難しさや
大切さをあらためて感じ、
深く考える良い機会となった

ただ話を聞くだけではなく、
グループワークを通して
自分で考える機会が多く
楽しかった

普段触れることのない
法律に触れて、物事の見方や
考え方が変わった



HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ADMISSION OFFICE

 **北海学園大学** 入試部入試課

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 [地下鉄東豊線「学園前」駅直結]

TEL.011-841-1161(代) FAX.011-841-1377 URL. <https://hgu.jp>

☎0120-86-2244

●豊平校舎/〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号

●山鼻校舎/〒064-0926 札幌市中央区南26条西1丁目1番1号

2025年度実績

出前講義
参加校 **63**校